

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-223	高等学校	国語	古典探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

本書は、高等学校学習指導要領「古典探究」に準拠して編修した教科書である。教育基本法第2条にある目標と「古典探究」の目標の両方の達成を可能にするため、言語を通して伝え合う力を高め、思考力・判断力・表現力を育成しつつ国語力を高められるよう、題材の選定と学習内容の構成・展開に留意した。

## 2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に示す教育目標を達成するため、以下の点を編修の基本方針とした。

### ①指導しやすい2分冊形態と単元構成

多様な教育現場の学力レベルと指導形態に対応できるよう「古文編」「漢文編」の2分冊とした。さらに「古文編」「漢文編」をそれぞれ「Ⅰ部」「Ⅱ部」の2部構成とし、ジャンル別単元とした。また、この2部構成での学習を円滑に進めるための導入部として、冒頭に「〈知〉のコミュニティへ」を設置した。

### ②教材の配置と学習の指針

各教材は、内容のまとまり・指導の時間数を考慮したうえで適切な分量の優れたものを精選した。また、学習上・指導上の効果を考慮して、より易しいものから難しいものへと配列した。各教材の末尾には、「読解」「表現」「発展」の問題から成る「学習の手引き」を設けるとともに、各教材における最終的な言語活動の到達目標を示す「活動」を設定し、学習の指針となるようにした。

### ③教材の理解と主体的な言語活動

学習者の理解力養成のため、各教材の本文下段には内容理解を促す小問を付したほか、末尾の「学習の手引き」には内容理解を深め、主題に迫るための「読解」問題を必ず設けた。さらに、主体的な学びに誘うための言語活動を各教材に設けた。言語活動のうち、「古典探究」の科目の特性を生かした発展的な活動については、「活動のプロセス」を配置・設定した。そのほか、言葉の特徴や使い方、言語文化に関する知識の学習に資するよう、「古文編」では重要古語を、「漢文編」では基本句形を、各教材の本文下段にまとめた。

## 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所(ページ)
● 〈知〉のコミュニティへ 「古典のことばを読み 深める 一中古・中世・ 近世の作品から」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、古典作品の世界により深く分け入る教材として、伊勢物語「鶉」、平家物語「福原落」、あつめ句(芭蕉)「はつゆきや」を配した(第5号)。	①古文編 10～13 ページ
● 古文編 Ⅰ部 8 単元 Ⅱ部 8 単元	①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、古文編Ⅰ部に8単元、Ⅱ部に8単元を設け、多彩な内容を持つ教材を配した(第1号)。	①古文編 14～157 ページ 172～297 ページ

	②伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、古文編Ⅰ部に8単元、Ⅱ部に8単元を設け、多彩な内容を持つ教材を配した(第5号)。	②古文編 14～157 ページ 172～297 ページ
●古文編 Ⅰ部「随筆Ⅰ」単元	①古文編Ⅰ部に「随筆Ⅰ」単元を設け、個人の生き方を考える7教材を配した(第2号)。	①古文編 22～37 ページ
●古文編 Ⅰ部「随筆Ⅱ」単元	①古文編Ⅰ部に「随筆Ⅱ」単元を設け、自然と環境を考える4教材を配した(第4号)。	①古文編 66～73 ページ
●古文編 Ⅱ部「随筆」単元	①古文編Ⅱ部に「随筆」単元を設け、自然と環境を考える4教材を配した(第4号)。	①古文編 172～181 ページ
●古文編 Ⅱ部「日記」単元	①古文編Ⅱ部に「日記」単元を設け、女性の生き方を考える8教材を配した(第3号)。	①古文編 182～201 ページ
●古文編 Ⅰ部 小林秀雄「平家物語」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、古文編Ⅰ部に古文を現代からの視点で読み解く教材「平家物語」を配した(第5号)。	①古文編 100～105 ページ
●古文編 Ⅰ部「私たちの古典受容 一訳から広がる新しい 世界一」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、古文編Ⅰ部に「私たちの古典受容 一訳から広がる新しい世界一」を設け、2教材を配した(第5号)。	①古文編 142～143 ページ
●古文編 Ⅰ部「古文解析」	①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、古文編Ⅰ部に「古文解析」を設け、2教材を配した(第1号)。	①古文編 158～161 ページ
●古文編 Ⅰ部「文法の要点」1～3	①伝統と文化を尊重する態度を養い、文語の決まりや表現の特色などへの理解を深められるよう、古文編Ⅰ部に「文法の要点」1～3を設けた(第5号)。	①古文編 162～170 ページ
●〈知〉のコミュニティへ 「古典のことばを読み 深める 一漢詩・寓話・ 故事を通じて一」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への興味・関心を広げられるよう、古典作品の世界により深く分け入る教材として、「新晴」、「蜂針人熊」、「不以私事害公義」を配した(第5号)。	①漢文編 10～13 ページ
●漢文編 Ⅰ部7単元 Ⅱ部8単元	①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるよう、漢文編Ⅰ部に7単元、Ⅱ部に8単元を設け、多彩な内容を持つ教材を配した(第1号)。 ②伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語文化への理解を深められるよう、漢文編Ⅰ部に7単元、Ⅱ部に8単元を設け、多彩な内容を持つ教材を配した(第5号)。	①漢文編 14～95 ページ 100～187 ページ ②漢文編 14～95 ページ 100～187 ページ

●漢文編 I部「故事・寓話」「思想」 単元	①漢文編I部に「故事・寓話」「思想」単元を設け、 個人の生き方を考える12教材を配した(第2号)。	①漢文編 14～22 ページ 83～95 ページ
●漢文編 II部「史伝I」「史伝II」 単元	①漢文編II部に「史伝I」「史伝II」単元を設け、個人 と他者との関係を考える7教材を配した(第3 号)。	①漢文編 108～113 ページ 154～171 ページ
●漢文編 II部「思想」単元	①漢文編II部に「思想」単元を設け、個人の生き方 を考える9教材を配した(第2号)。 ②漢文編II部に「思想」単元を設け、生命と自然を 考える9教材を配した(第4号)。	①漢文編 172～183 ページ ②漢文編 172～183 ページ
●漢文編 I部「私たちの古典受容 一訳から広がる新しい 世界一」	①伝統と文化を尊重する態度を養い、伝統的な言語 文化への興味・関心を広げられるよう、漢文編I部 に「私たちの古典受容 一訳から広がる新しい世界 一」を設け、2教材を配した(第5号)。	①漢文編 54～55 ページ
●漢文編 I部「漢文解析」	①幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度 を養えるよう、漢文編I部に「漢文解析」を設け、 3教材を配した(第1号)。	①漢文編 96～98 ページ

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・「古典探究」の科目の特性を生かした発展的な活動については、「活動のプロセス」を配置・設定した。
- ・一般的な教養を高めるとともに、専門的な知見に触れられるよう、「古文編」に「コラム(1～5)」、「漢文編」に「コラム(1・2)」を設けた。
- ・本文から見えてくる当時の世界観を解説した「古典世界ビュー」を、「古文編」I部の7教材に、「漢文編」I部の6教材に設けた。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-223	高等学校	国語	古典探究	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

個々の教材の採録にあたっては、全体として、学習指導要領の「2内容」の各事項に沿った指導ができるよう、優れた表現と構成を持ち、主題や内容が明確で、適度な長さのものを厳選した。また、本文の学習をより深め、補佐するための資料として、「古文編」に「文法の要点」「コラム(1~5)」を、「漢文編」に「コラム(1・2)」を、「古文編」「漢文編」のそれぞれの巻頭巻末に「付録」を設けた。

## 2. 対照表

図書構成・内容		該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容		
編	単元		教材名	知識及び技能	A 読むこと
古文編 I部	ミ ニ テ コ 知 の コ	古典のことばを読み深める 一中古・中世・近世の作品から一 騎〔伊勢物語〕／福原落〔平家物語〕／はつゆきや〔あつめ句〕	10~13	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
	説 話	宇治拾遺物語 歌詠みて罪を許さるること	14~16	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		古今著聞集 衣のたて	17~18	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウキ
		沙石集 勘解由小路の地藏	19~21	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ
	随 筆 I	徒然草 あだし野の露消ゆるるときなく	22~23	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウカ
		徒然草 家居のつきづきしく	24~25	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウカ
		徒然草 これも仁和寺の法師	26~27	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウカ
		徒然草 ある者、子を法師になして	28~29	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		徒然草 主ある家には	30~31	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオカ
		方丈記 行く川の流れ	32~33	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ
		方丈記 安元の大火・治承のつじ風	34~37	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
	物 語 と 日 記	竹取物語 天の羽衣	38~42	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		伊勢物語 初冠	42~43	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ
		伊勢物語 月やあらぬ	44~45	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		伊勢物語 行く蛍	46~47	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		伊勢物語 狩りの使ひ	48~50	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		比較で深める1 君や来しわれや行きけむ〔古今和歌集〕	51	(1)アイエ(2)アイウエ	(1)アイエ
		伊勢物語 つひに行く道	52	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ
		大和物語 姨捨	53~55	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		比較で深める2 夜もすがら月を見て、ながめける歌〔俊頼髓脳〕	56	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ
		更級日記 門出	58~59	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオク
		更級日記 物語	60~63	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ
	コラム1 女手(平仮名)と平安時代の文学	64~65	(2)アウエ	—	
	随 筆 II	枕草子 うつくしきもの	66~67	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		枕草子 木の花は	68~70	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		枕草子 中納言参りたまひて	70~71	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		枕草子 雪のいと高う降りたるを	72~73	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ

図書の構成・内容		該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			
編	単元		教材名	知識及び技能	A 読むこと	
古文編 Ⅰ部	歴史と軍記	大鏡 雲林院の菩提講	74～77	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ	
		大鏡 花山院の出家	78～80	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ	
		大鏡 三船の才	81～82	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエオ	
		大鏡 道長と伊周の競射	83～85	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ	
		構成と概観「平家物語」	86～87	(2)アウエ	—	
		平家物語 忠度の都落ち	88～91	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ	
		平家物語 宇治川の先陣	92～96	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ	
		平家物語 先帝入水	96～99	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ	
		小林秀雄「平家物語」	100～105	(2)アウエ	(1)オカキク	
	物語	構成と概観「源氏物語」	106～107	(2)アウエ	—	
		源氏物語 光源氏の誕生	108～111	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ	
		源氏物語 光源氏と藤壺	112～113	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ	
		源氏物語 若紫との出会い	114～118	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ	
		コラム2 海を越える『源氏物語』	120	(2)アウエ	—	
	和歌と俳諧	和歌 春秋／恋／離別・旅・哀傷	121～128	(1)アイエ(2)アイウエ	(1)カキク	
		活動のプロセス1 和歌の魅力を伝える	130	(1)アエ(2)アイエ	(1)ウオキ	
		俳諧 発句	131～134	(1)アイエ(2)アウエ	(1)カキク	
		比較で深める3 俳諧の誠〔三冊子〕	135	(1)アイウエ(2)アイエ	(1)アイエク	
		俳諧 連句	136～139	(1)アイエ(2)アウエ	(1)イカキク	
	活動のプロセス2 〈座〉の文芸 連句を楽しむ	140～141	(1)アイエ(2)アウエ	(1)キク		
	私たちの古典受容		①難波湯…〔小倉百人一首・伊勢〕／②立石寺〔奥の細道(芭蕉)〕	142～143	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウク
	近世文学	日本永代蔵 世界の借屋大将	144～149	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイオカ	
		コラム3 守銭奴から商人の鑑へ	150	(2)アウエ	—	
		雨月物語 浅茅が宿	151～157	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイウキ	
	古文解析	解析① 継母との別れ〔更級日記〕	158～159	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ	
		解析② 旧都の月〔平家物語〕	160～161	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ	
	文法の要点	●文法の要点1 識別	162～165	(1)ア	—	
●文法の要点2 敬語		166～167	(1)ア	—		
●文法の要点3 和歌		168～170	(1)エ	—		
古文編 Ⅱ部	随筆	枕草子 すさまじきもの	172～174	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ	
		枕草子 野分のまたの日こそ	175～177	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウカ	
		枕草子 二月つごもりごろに	178～179	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ	
		枕草子 大納言殿参りたまひて	180～181	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ	
	日記	蜻蛉日記 嘆きつつひとり寝る夜	182～184	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエキ	
		蜻蛉日記 鷹を放つ	184～186	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ	
		和泉式部日記 夢よりもはかなき世の中を	187～189	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウク	
		和泉式部日記 有明の月に	190～192	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ	
		紫式部日記 水鳥に思いよそえて	193～194	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ	
		紫式部日記 日本紀の御局	195～197	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ	
		建礼門院右京大夫集 かかる夢見ぬ人やいひけむ	198～199	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ	
		建礼門院右京大夫集 今や夢昔や夢と	200～201	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウエ	

図書の構成・内容		該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容		
編	単元		教材名	知識及び技能	A 読むこと
古文編 Ⅱ部	物語	源氏物語 藤壺の里下がり	202～206	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
		源氏物語 葵上と物の怪	207～211	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
		源氏物語 柏木と女三宮	212～216	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
		源氏物語 紫上の死	217～220	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウカ
		コラム4 原文を読み解く魅力	221	(2)アウエ	—
		源氏物語 匂宮と浮舟	222～226	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		堤中納言物語 虫めづる姫君	227～229	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ
		活動のプロセス3 古典作品における価値観を探る	230～231	(1)アイ(2)アイエ	(1)アエオカ
		松浦宮物語 梅里の一夜	232～235	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		評論Ⅰ	古今和歌集仮名序 やまと歌は	236～237	(1)アイウエ
	俊頼髄脳 和歌の効用		237～239	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ
	無名抄 俊成自賛歌のこと		240～242	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウク
	去来抄 行く春を		243～244	(1)アイウエ	(1)アイカク
	去来抄 岩鼻や		244～246	(1)アイウエ	(1)アイキク
	三冊子 師の風雅		247～249	(1)アイウエ	(1)アイエク
	歴史と伝説	大鏡 菅原道真の左遷	250～254	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		大鏡 道長の豪胆	254～258	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		古事記 倭建命	259～263	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイカキ
	評論Ⅱ	無名草子 小野小町	264～266	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオキ
		風姿花伝 秘する花を知ること	267～269	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカキ
		難波土産 虚実皮膜の論	270～272	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイカク
		玉勝間 師の説になづまざること	272～275	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		源氏物語玉の小櫛 もののあはれ	276～277	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
	近世の文章・戯曲・和歌	柴門の辞 風雅の道	278～280	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイウカ
		おらが春 娘 さと	280～282	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイウ
		雲萍雑誌 堪忍	282～284	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイカ
		曾根崎心中 徳兵衛お初道行	285～287	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイカク
		近世和歌	288～289	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイク
		狂歌	290	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイエク
		コラム5 国語教科書の源流—「往来物」の話	291	(2)アウエ	—
	古典世界の夜	星の夜の深きあはれ〔建礼門院右京大夫集〕	292～293	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイオ
		天下怪異のこと〔太平記〕	294～295	(1)アイウエ(2)アウエ	(1)アイオ
夜空を詠んだ和歌・俳諧		296～297	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイオ	
漢文編 Ⅰ部	ミ ヘ コ 知 の テ イ コ	古典のことばを読み深める —漢詩・寓話・故事を通じて— 新晴／蜂針人熊／不以私事害公義	10～13	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
	故事・寓話	画竜点睛	14	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		漱石枕流	15	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエク
		病入膏肓	16～17	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
		梁上君子	17～18	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ
		先従隗始	19～20	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		杞憂	20～21	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ
	史伝Ⅰ	赤壁の戦い	23～26	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		比較で深める1 赤壁	27	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ
		構成と概観「史記」	28～29	(2)アウエ	—
		背水の陣	30～32	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオク

図書構成・内容		該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容			
編	単元		教材名	知識及び技能	A 読むこと	
漢文編 I部	詩	絶句 秋風引 (劉禹錫)	34	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイエキ	
		絶句 雑詩 (王維)	35	(1)アイエ(2)アイウエ	(1)アイエキ	
		絶句 望廬山瀑布 (李白)	36	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイエキ	
		絶句 芙蓉楼送辛渐 (王昌齡)	37	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイエキ	
		律詩 臨洞庭 (孟浩然)	38	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイエキ	
		律詩 登高 (杜甫)	39	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイエキ	
		活動のプロセス1 漢詩の鑑賞文を書く	40~41	(1)アイエ(2)アイエ	(1)イウキ	
		古体詩 桃夭	42	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイキ	
		古体詩 行行重行行 (無名氏)	43	(1)アイエ(2)アイウエ	(1)アイキ	
		古体詩 七步詩 (曹植)	44	(1)アイエ(2)アイウエ	(1)アイキ	
	古体詩 勅勒歌 (無名氏)	44~45	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイキ		
	日本の漢文	対花懐昔 (義堂周信)	47	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイキ	
		題不識庵擊機山図 (頼山陽)	48	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイキ	
		夏夜 (江馬細香)	49	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイキ	
		思君 (中野道遙)	50	(1)アイエ(2)アウエ	(1)アイキ	
		コラム1 日本漢詩一模倣から創作、そして鑑賞する古典へ 川中島の戦い (頼山陽)	51 52~53	(2)アウエ (1)アイエ(2)アウエ	— (1)アイウオ	
	私たちの古典受容	①白居易「村夜」／②陸游「泛瑞安江風濤貼然」	54~55	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウク	
	文章	春夜宴桃李園序 (李白)	56~57	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイク	
		桃花源記 (陶潜)	58~61	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ	
		師説 (韓愈)	62~64	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ	
		史伝II	鴻門之会 (一)沛公、項王に見ゆ	65~67	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
			鴻門之会 (二)樊噲、頭髮上指す	68~69	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
			鴻門之会 (三)臣死すら且つ避けず	70~71	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
			鴻門之会 (四)沛公、車騎を置きて脱す	72~73	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
			鴻門之会 (五)豎子、与に謀るに足らず	74~75	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
	比較で深める2 留侯論 [文章軌範] / 范増論 [文章軌範]	76~77	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエク		
	四面楚歌 (一)項王、悲歌愴慨す	78~80	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ		
	四面楚歌 (二)項王、自刎して死す	80~82	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ		
	思想	論語	83~85	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ	
		孟子 四端	86~87	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ	
		孟子 性善	87~88	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ	
		荀子 学不可以已	89~90	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオク	
		荀子 星隊木鳴	90~91	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオク	
荀子 性悪		91~92	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオク		
活動のプロセス2 「性善説」「性悪説」をもとに考える		94~95	(1)アイウエ(2)アイエ	(1)アイウオ		
漢文解析	解析① 人主者以刑徳制臣 [韓非子]	96	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ		
	解析② 教学相長也 [礼記]	97	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ		
	解析③ 聖人治天下 [孟子]	98	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ		
漢文編 II部	逸話	不顧後患	100~101	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ	
		孔明臥竜	102~103	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ	
		三横	104~105	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ	
		江南橋為江北枳	106~107	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイク	
	史伝I	荆軻	108~110	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエキ	
子路 (司馬遷)		111~113	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエク		

図書の構成・内容			該当箇所 (ページ)	学習指導要領の内容	
編	単元	教材名		知識及び技能	A 読むこと
漢文編 Ⅱ部	詩	月下独酌 (李白)	114～115	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイキ
		兵車行 (杜甫)	116～118	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ
		長恨歌 (白居易)	119～126	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイキ
		コラム2 「長恨歌」と紫式部—白詩受容の展開	127	(2)アウエ	—
	文章	漁父辞 (屈原)	128～130	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		捕蛇者説 (柳宗元)	131～134	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
		岳陽楼記 (范仲淹)	134～137	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイキ
		売柑者言 (劉基)	138～140	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウ
	伝奇小説	人面桃花 (孟榮)	141～144	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		種梨 (蒲松齡)	144～147	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ
		三夢記 (白行簡)	148～153	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイキク
	史伝Ⅱ	廉頗と藺相如 (一)璧を完うして趙に帰る	154～158	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		廉頗と藺相如 (二)涇池の会	158～161	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオ
		廉頗と藺相如 (三)刎頸の交はり	161～163	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイウオ
		蘇武と李陵 (一)蘇武、南に郷かひて号哭し血を飲く	164～168	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエ
		蘇武と李陵 (二)李陵、遂に匈奴に死せり	168～171	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエク
	思想	老子 無用之用	172	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオカ
		老子 大道廃有仁義	172～173	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオカ
		莊子 蝴蝶之夢	173～174	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオカ
		莊子 渾沌	174	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオカ
		莊子 言、大而無用	175～176	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイオカ
		韓非子 侵官之害	176～177	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエカ
		韓非子 処知則難	178～179	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエカ
		墨子 非攻	180～182	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカ
		性非学者之所急 (荻生徂徠)	182～183	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイカウ
	政治と人間	以無事取天下 [老子]	184～185	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエカ
		不能与君陷難 [説苑]	185～186	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエカ
路不拾遺 [十八史略]		186～187	(1)アイウエ(2)アイウエ	(1)アイエカ	

## 音訓一覽表

<b>古文編</b>		徒然 つれづれ (22)	正月 むつき (44)	児 ちご (66)
取 とり (9)	部 べ (22)	敷 じき (44)	指 および (66)	
伴 とも (9)	年 とせ (22)	傾 かたぶ (44)	束 ぞ (66)	
御 み (9)	四十 よそぢ (23)	六月 みなづき (46)	児 ご (67)	
行 ゆき (9)	陽 ひ (23)	子 ね (48)	五月 さつき (68)	
勢 せ (10)	透垣 すいがい (24)	寝 ぬ (49)	敬 ぎやう (68)	
落 おち (11)	工 たくみ (24)	詞 ことば (49)	唐土 もろこし (68)	
曾 そ (11)	前 せん (24)	今 こ (49)	帝 みかど (68)	
義 よし (11)	大臣 おとど (25)	歩 あり (49)	選 え (69)	
平 たいら (11)	仁 にん (26)	斎 いつき (49)	隆 たか (70)	
盛 もり (11)	和 な (26)	頭 かみ (49)	海月 くらげ (71)	
戸 べ (11)	醉 ゑ (26)	張 はり (49)	炭 す (72)	
海人 あま (11)	(帷)子 かつら (26)	徒歩 かし (50)	雲 う (74)	
煙 けぶり (11)	医師 くすし (26)	続 つい (50)	提 だい (74)	
尾上 おのへ (11)	理 ことわり (28)	御 おほん (50)	先 さい (74)	
浪 なみ (11)	請 しやう (28)	女 むすめ (50)	面 め (74)	
天 でん (11)	隙 ひま (28)	親王 みこ (50)	下 が (74)	
守 かみ (14)	齡 よはひ (29)	業 なり (51)	黄泉 よみ (74)	
輕 かる (14)	去年 こぞ (32)	捨 すて (53)	太 だい (75)	
率 む (14)	朝 あした (32)	信濃 しなの (53)	蔵人 くらうど (75)	
出 い (14)	誰 た (33)	級 しな (53)	舎人 とねり (75)	
打 ちやう (15)	四月 うづき (34)	妻 め (53)	丸 まろ (75)	
頼 より (17)	朱 す (34)	給 たま (54)	宅 やけ (75)	
朝臣 あそん (17)	公 く (35)	寝 い (54)	繼 つぎ (75)	
貞 さだ (17)	皮 はだ (35)	俊 とし (56)	姓 さう (75)	
任 たふ (17)	未 ひつじ (36)	冠 かぶり (56)	繁 しげ (75)	
宗 むね (17)	造 みやつこ (38)	巾 こ (56)	樹 き (75)	
陸奥 みちのく (17)	翁 おきな (38)	忠 ただ (57)	侍 さぶらひ (76)	
発 た (17)	賜 たま (38)	度 のり (57)	者 ざ (76)	
軍 いくさ (17)	外 と (39)	孝 たか (57)	望 もち (76)	
男 をのこ (17)	本 ほ (40)	標 すえ (57)	丙 ひのえ (76)	
妙 たへ (17)	衣 きぬ (40)	東 あづま (58)	申 さる (76)	
館 たち (17)	悪 あ (40)	繼 まま (58)	局 つぼね (78)	
甲 かぶと (17)	衣 ぞ (40)	光 ひかる (58)	有 あり (78)	
沙 しゃ (19)	思 おぼ (41)	額 ぬか (59)	明 あけ (78)	
勘解由 かでの (19)	失 う (41)	九月 ながつき (59)	春 とう (78)	
小路 こうじ (19)	冠 かうぶり (42)	霧 き (59)	出 す (78)	
退 の (19)	春日 かすが (43)	乳母 めのと (60)	破 や (78)	
童 わらは (19)	往 い (43)	三月 やよひ (60)	髪 ぐし (79)	
月 づく (20)	狩 かり (43)	太 うづ (61)	案 あ (79)	
候 さぶら (20)	誰 たれ (43)	后 きさき (62)	朕 われ (79)	
以 も (20)	雅 みや (43)	法 ほ (62)	辺 わた (79)	
侍 はべ (20)	東 ひむがし (44)	浮 うき (62)	尺 さく (79)	
聖 しやう (21)	后 きさい (44)	貫 つら (65)	周 ちか (83)	

中心	なから	(84)	暇	いとま	(98)	典侍	ないのすけ	(112)	市	まち	(136)
園	おん	(86)	迎	かう	(98)	妃	きさき	(114)	銀	かね	(137)
経	つね	(86)	尋	ひろ	(98)	光	みつ	(114)	指	さし	(137)
保	ほう	(86)	生	いけ	(100)	脇	けふ	(114)	落	おとし	(138)
入	じゅ	(86)	食	ずき	(100)	吹	ふき	(115)	暫	しばら	(138)
安房	あわ	(86)	黄	きん	(101)	君	き	(115)	入	にっ	(138)
維	これ	(86)	総	ふさ	(101)	伏	ふせ	(115)	拳	あげ	(139)
曆	りやく	(87)	衛	ゑ	(101)	籠	ご	(115)	武	たけ	(140)
以	もち	(87)	佐	すけ	(101)	中	うち	(115)	果	はて	(142)
仁	ひと	(87)	磨	する	(101)	髪	かん	(116)	寿	ひさ	(143)
令	りょう	(87)	刷	は	(102)	聖	ひじり	(117)	閑	しづ	(143)
政	まさ	(87)	通	みち	(103)	病	やみ	(117)	借	かし	(144)
朝	とも	(87)	息	やす	(106)	息	そこ	(118)	請	うけ	(144)
衡	ひら	(87)	出	いだ	(106)	垣	かい	(119)	店	たな	(144)
頂	じょう	(87)	明石	あかし	(106)	凡	おほし	(121)	丸	ま	(144)
範	のり	(87)	高麗人	こまど	(106)	河内	かふち	(121)	通	とほり	(144)
越	ごえ	(87)	空	うつ	(106)	恒	つね	(121)	向	きやう	(144)
位	み	(88)	摘	つむ	(106)	能	よし	(121)	反	ほん	(144)
落人	おちうと	(88)	賢	さか	(106)	難波	なには	(121)	単	ひとへ	(145)
別	べち	(88)	散	ちる	(106)	兼	かね	(122)	踏	た	(145)
候	さうら	(88)	標	つくし	(106)	雅	まさ	(122)	海松	みる	(145)
略	らく	(89)	合	あわせ	(106)	吉	よし	(122)	苦	たう	(145)
良	ら	(92)	少女	おとめ	(106)	生	ぶ	(123)	参	やく	(145)
一口	いもあらひ	(92)	分	わき	(106)	御手洗	みたらし	(123)	生	む	(146)
近江	あふみ	(93)	行幸	みゆき	(106)	和泉	いづみ	(123)	鑑	かがみ	(146)
利	かが	(93)	梅枝	うめがえ	(106)	魂	たま	(123)	十二月	しはず	(146)
重	しげ	(93)	宣	のぶ	(107)	泉	ぜい	(124)	荷	にな	(146)
景	かげ	(93)	為	ため	(107)	好	よし	(124)	算	そろ	(146)
季	すゑ	(93)	覚	ざめ	(107)	七月	ふみづき	(126)	減	かん	(146)
段	たん	(93)	狭	さ	(107)	半	は	(126)	(茄)子	なすび	(146)
腹帯	はるび	(94)	薫	かおる	(107)	実	さね	(126)	生	な	(146)
三	さぶ	(94)	大	おおい	(107)	続	しよく	(126)	銀	かな	(147)
秀	ひで	(94)	匂	におう	(107)	鳥	と	(127)	煮	にう	(148)
弓	ゆん	(94)	法	のり	(107)	隠	お	(127)	予	あらかじ	(150)
親	ちか	(95)	椎本	いがもと	(107)	相撲	すまひ	(127)	丁	でっ	(150)
帽	ぼ	(95)	総角	あげまき	(107)	還	かへり	(127)	総	うさ	(151)
武蔵	むさし	(95)	早	さ	(107)	病	やむ	(131)	勝	かつ	(151)
門	と	(96)	習	ならい	(107)	悦	や	(132)	足	あ	(151)
知	とも	(97)	上	かん	(109)	討	うち	(132)	人	いへ	(152)
拭	のご	(97)	達	だち	(109)	夫婦	めをと	(132)	標	しるし	(152)
戯	たはぶ	(97)	部	め	(109)	更衣	ころもがへ	(132)	間	すき	(152)
鈍	にび	(97)	前	さき	(109)	形	な	(133)	他	こと	(152)
練	ねり	(97)	皇子	みこ	(109)	度	た	(133)	眼	まみ	(152)
輝	かかや	(97)	衆	ず	(110)	郷	さと	(133)	夫	をとこ	(152)
生	む	(98)	御	お	(110)	是	これ	(133)	京	みやこ	(152)
東	ひんがし	(98)	皇女	みこ	(110)	冊	ざう	(135)	師	いくさ	(153)

潰	つい	(153)	二月	きさらぎ(178)	(按)察使	あぜち(227)	建	たけ	(259)
領	れい	(153)	主殿	とのも(178)	(烏)毛虫	かむし(227)	副	そ	(259)
賊	だち	(153)	賢	かた(179)	夕	ゆふべ(228)	尋	ひろ	(259)
刀	と	(153)	督	かみ(179)	浦	ら(232)	故	かれ	(259)
与	くみ	(153)	長	をさ(180)	公主	みこ(232)	朝廷	みかど(259)	
陣	いくさ	(153)	鶏	とり(181)	帝	だい(233)	拝	をろが(259)	
辺	ほと	(153)	倫	とも(182)	古	ふ(233)	売	め(259)	
尺	せき	(153)	寧	やす(182)	掲	けち(233)	時	だ(259)	
隠	こも	(153)	陸奥	むつ(182)	泊	はつ(235)	軍	いくさびと(259)	
寡	やもめ	(153)	十月	かみなづき(182)	長谷	はせ(235)	思	お(260)	
全	また	(153)	内裏	うち(183)	天地	あめつち(236)	患	うれ(260)	
消息	おとづれ(154)		二	ふつか(183)	武人	もののふ(236)	芸	ぎ(260)	
丈夫	ますらを(154)		築土	ついひち(187)	通	とほし(237)	剣	たち(260)	
鎖	と	(154)	帥	そち(188)	歳	とし(243)	急	とみ(260)	
途	みち	(154)	尊	たか(190)	真	まこと(244)	受	ず(261)	
熟	うま	(154)	退	しぞ(193)	悦	よろこ(244)	婚	まぐは(261)	
天	そら	(154)	衛	い(195)	質	つき(248)	還	かへ(261)	
間	ひま	(154)	門	も(195)	四	しい(248)	期	ちぎ(261)	
延	は	(154)	才	ざえ(195)	真	ざね(250)	相武	さがむ(261)	
違	たが	(155)	書	ふみ(196)	大	だ(251)	裏	うち(261)	
踏所	ふみど(155)		楽	が(196)	東風	こち(251)	刀	はかし(261)	
(閨)房	ふしど(155)		女	にょう(200)	水	み(251)	退	そ(261)	
昨夜	よべ(155)		深	み(201)	出	す(251)	焼	やき(261)	
十	そ	(155)	直衣	なほし(203)	駅	むまや(251)	遣	づ(261)	
末期	いまは(155)		宿	すく(204)	是	こ(252)	走	はしり(261)	
漆	うる	(156)	怪	け(204)	別	べ(252)	弟	おと(261)	
途	ず	(157)	行	くだり(205)	食	は(252)	甲	か(262)	
上総	かずさ(158)		七月	ふづき(205)	豊	ぶ(256)	治	はり(262)	
枝	え	(159)	牛	ぎつ(207)	仁	じ(256)	焼	たき(262)	
訪	と	(159)	祈(禱)	いのり(207)	寿	じゆう(256)	老人	おきな(262)	
遷	うつ	(160)	念	ね(207)	塗	ぬり(256)	能	の(262)	
八月	はづき(160)		主	す(210)	籠	ごめ(256)	煩	ぼ(262)	
所	ど	(160)	修	ず(210)	従	ず(256)	平群	へぐり(262)	
南	みんなみ(160)		階	はし(213)	証	そう(256)	華	ず(262)	
優	う	(161)	君	きん(214)	術	ずち(256)	愛	は(263)	
掛	かけ	(169)	大殿	おとど(215)	座	くら(257)	(吾)家	わがへ(263)	
崇	す	(169)	円座	わらふだ(215)	建	たける(259)	起	た(263)	
網	あ	(172)	干	から(215)	命	みこと(259)	崩	かむあが(263)	
司	つかさ	(173)	土器	かはらけ(215)	天皇	すめらみこと(259)	駅	はゆま(263)	
衆	す	(173)	埋	うづ(222)	頻	し(259)	使	つかひ(263)	
立	たて	(175)	少(輔)	せふ(223)	詔	の(259)	信	のぶ(265)	
女郎花	をみなへし(175)		官	つかさ(223)	十	とをまり(259)	世	ぜ(267)	
母	も	(176)	常(磐)	ときは(224)	和平	やは(259)	弥	み(267)	
生絹	すずし(176)		経	ふ(224)	吉	き(259)	為	し(268)	
単衣	ひとへ(176)		因(幡)	いなば(225)	臣	おみ(259)	膜	にく(270)	
宿直	とのゐ(176)		横	よ(225)	祖	おや(259)	虚	うそ(270)	

居	をり	(272)	迭	およ	(11)	由	よ	(18)	将	も	(27)
宣	のり	(272)	反	かへ	(11)	令	し	(18)	与	ため	(27)
古典	いにしへぶみ	(273)	不	ざ	(11)	遺	おく	(18)	鎖	とぎ	(27)
意	こころ	(273)	則	すなは	(11)	自	よ	(18)	走	に	(30)
情	こころ	(276)	然	しか	(11)	復	ま	(18)	空	むな	(30)
器	うつはもの	(278)	以	もつ	(12)	先	ま	(19)	逐	お	(30)
実	まこと	(279)	誰	たれ	(12)	従	よ	(19)	若	なんぢ	(30)
俳優	わざをぎ	(281)	使	し(む)	(12)	卑	ひく	(19)	疾	と	(30)
唾	つ	(283)	為	た	(12)	古	いにしへ	(19)	詳	いつは	(30)
兵	へ	(285)	対	こた	(12)	況	いは	(19)	抛	よ	(31)
妹	いも	(285)	虞	ぐ	(12)	是	ここ	(19)	為	つく	(31)
飾	しか	(288)	非	あら	(12)	往	ゆ	(20)	肯	がへ	(31)
覧	み	(289)	為	な	(12)	曉	さと	(20)	前	さき	(31)
等	ら	(289)	見	まみ	(12)	耳	のみ	(20)	良	やや	(31)
方	も	(290)	赦	ゆる	(12)	処	ところ	(20)	棄	す	(31)
朱	あけ	(290)	怨	うら	(12)	若	ごと	(20)	上	ほとり	(31)
楽	ら	(290)	竜	りよう	(14)	奈何	いかん	(20)	殊	き	(31)
訓	きん	(291)	画	ゑが	(14)	墜	お	(21)	候	うかが	(31)
始	はじめ	(291)	毎	つね	(14)	邪	か	(21)	以為	おも	(32)
悦	よろこび	(291)	即	すなは	(14)	(只)使	たと	(21)	虜	とりこ	(32)
向	むかつ	(291)	須	しゆ	(14)	能	あた	(21)	何	いづ	(34)
猶	なほ	(291)	騰	をど	(14)	壞	くづ	(21)	応	まさ…べ	(35)
処	ところ	(294)	未	いま…ざ	(14)	舍	せき	(21)	著	つ	(35)
休	や	(294)	眼	め	(14)	出	い	(22)	看	み	(36)
凡	およ	(294)	枕	ちん	(15)	与	と	(23)	如	も	(37)
禍	わざは	(294)	少	わか	(15)	遇	あ	(23)	夢	ぼう	(38)
陰	おん	(294)	当	まさ…べ	(15)	住	とど	(23)	濟	わた	(38)
電	いなびかり	(294)	所以	ゆゑん	(15)	詣	いた	(24)	徒	いたづ	(38)
乾	いぬみ	(294)	疾	やまひ	(16)	等	ら	(24)	哀	かな	(39)
電光	いなびかり	(294)	為	をさ	(16)	逆	むか	(24)	作	な	(39)
輝	ひか	(294)	居	を	(16)	衆	おほ	(24)	苦	はなは	(39)
猛	みやう	(295)	若何	いかん	(16)	寡	すく	(24)	停	とど	(39)
頻	しき	(295)	歳	とし	(17)	与	とも	(24)	帰	とつ	(42)
倍	べ	(296)	止	とど	(17)	觀	み	(24)	阻	けは	(43)
頭	あき	(297)	陰	ひそ	(17)	降	くだ	(25)	安	いづ	(43)
訪	とひ	(297)	起	た	(17)	予	あらかじ	(25)	依	よ	(43)
			訓	をし	(17)	前	すす	(25)	蔽	おほ	(43)
			夫	そ	(17)	指	ゆびさ	(25)	晚	く	(43)
			勉	つと	(18)	猛	たけ	(25)	道	い	(43)
			未	いま…ず	(18)	頃(之)	しばら	(25)	持	もつ	(44)
			以	と	(18)	張	みなぎ	(25)	釜	ふ	(44)
			者	は	(18)	環	かへ	(25)	然	も	(44)
			是	これ	(18)	留	とど	(25)	煎	に	(44)
			徐	おもむろ	(18)	徑	ただ	(25)	太	はなは	(44)
			視	み	(18)	沙	すな	(27)	低	た	(45)
			宜	よろ…べ	(18)	自	おの	(27)	見	あらは	(45)
<b>漢文編</b>											
熊	いう	(11)									
被	ら	(11)									
不	ず	(11)									
可	べ	(11)									
遂	つい	(11)									
団	あつ	(11)									

平	ひょう	(46)	扶	そ	(60)	軽	かるがる	(76)	長	は	(99)
懐	おも	(47)	向	さき	(60)	為	す	(77)	谷	せ	(99)
如	ごと	(47)	誌	しる	(60)	相	み	(77)	伐	う	(100)
醒	さ	(47)	随	したが	(60)	維	こ	(77)	懐	いだ	(100)
過	わた	(48)	規	はか	(60)	蓋	おほ	(79)	丸	たま	(100)
容	かたち	(50)	尋	つ	(60)	泣	なみだ	(79)	弾	ゆみ	(100)
腸	はらわた	(50)	陳	つら	(61)	亡	ほろ	(81)	患	うれ	(101)
尽	ことごと	(50)	甘	うま	(61)	縦	たと	(81)	罷	や	(101)
径	へ	(52)	終	つひ	(62)	呂	りよ	(82)	字	あざな	(102)
美	み	(52)	固	もと	(62)	購	あがな	(82)	邪	や	(102)
行	ゆき	(52)	庸	なん	(62)	頭	かうべ	(82)	屯	たむろ	(102)
以	ひき	(52)	猶	な	(63)	道	みちび	(83)	凡	およ	(102)
乱	わた	(52)	益	ますます	(63)	斉	ととの	(83)	日	ひび	(102)
将	まさ…す	(52)	扱	えら	(63)	格	いた	(83)	悦	よろこ	(102)
暇	いとま	(52)	彼	か	(63)	女	なんぢ	(83)	劇	はげ	(104)
甲	か	(52)	所(謂)	いはゆる	(63)	復	ふたた	(83)	余	のこ	(104)
中	あ	(53)	不	しか	(63)	賢	まさ	(84)	更	こもごも	(104)
跳	をど	(53)	遺	わす	(63)	猶	な…ごと	(84)	慶	よろこ	(104)
武	たけ	(53)	意	おも	(66)	興	た	(85)	彰	あらは	(105)
繁	しげ	(53)	能	よ	(66)	濫	みだ	(85)	為	も	(106)
索	もと	(53)	今者	いま	(66)	運	めぐ	(86)	樹	う	(106)
是	こ	(53)	父	ほ	(66)	要	もと	(86)	傷	そこ	(107)
創	きず	(53)	数	しばしば	(66)	悪	にく	(86)	質	ち	(108)
越	ゑち	(53)	者	こと	(66)	賊	そこ	(87)	亡	に	(108)
部	べ	(54)	不者	しからず	(67)	諸	これ	(87)	把	と	(108)
利	とし	(54)	且	まさ…す	(67)	信	まこと	(88)	雪	すす	(108)
男	お	(54)	何如	いかん	(68)	下	ひく	(88)	奔	はし	(109)
忠	ただ	(55)	内	い	(68)	行	や	(88)	遣	や	(109)
両	ふた	(55)	側	そば	(68)	是	か	(88)	虹	こう	(109)
中	うち	(55)	披	ひら	(68)	寒	つめ	(89)	環	めぐ	(109)
逆	げき	(56)	何為	なんす	(68)	利	するど	(89)	方	あ	(111)
飲	よろこ	(56)	賜	たま	(68)	博	ひろ	(89)	禍	わざはひ	(112)
幾何	いくばく	(56)	覆	ふ	(69)	隊	お	(90)	食	は	(112)
良	まこと	(56)	衝	つ	(69)	党	たまたま	(90)	卒	つひ	(112)
以	ゆゑ	(56)	勝	た	(70)	闇	あん	(90)	造	いた	(112)
召	まね	(56)	敢	あ	(70)	偽	み	(91)	乞	きつ	(112)
転	うた	(56)	故	ことさら	(70)	順	したが	(91)	免	ぬ	(112)
縁	よ	(58)	窃	ひそ	(70)	必将	かなら	(92)	将	と	(114)
溪	たに	(58)	如	ゆ	(71)	用	もつ	(92)	須	すべか…べ	(114)
路	みち	(58)	如今	いま	(72)	积	す	(96)	醒	さ	(114)
異	あや	(58)	方	まさ	(72)	爪	さう	(96)	同	とも	(114)
便	すなは	(58)	操	と	(72)	旨	うま	(97)	醉	ゑ	(114)
著	ちやく	(59)	度	はか	(74)	困	くる	(97)	娘	ぢやう	(116)
具	つぶさ	(59)	間	しばら	(74)	反	かへり	(97)	干	をか	(116)
要	むか	(59)	夫	か	(76)	強	つと	(97)	但	た	(116)
延	ひ	(59)	唯	た	(76)	易	をさ	(98)	頻	しき	(116)

去	ゆ	(116)	行	ゆくゆく	(128)	比日	さきごろ	(143)	均	はか	(155)
還	ま	(116)	清	す	(128)	首	かうべ	(143)	遣	し	(156)
被	る	(117)	見	れ	(128)	股	もも	(143)	奏	すす	(156)
申	の	(117)	弾	はじ	(129)	某	われ	(143)	貪	たん	(156)
休	や	(117)	寧	むし	(129)	祝	いの	(143)	負	たの	(156)
好	よ	(118)	肌	き	(131)	活	い	(143)	厳	おそ	(157)
頭	ほとり	(118)	幾	ほと	(131)	種	う	(144)	好	よしみ	(158)
陰	くも	(118)	貌	かたち	(131)	貨	ひさ	(144)	徒	た	(161)
湿	うるほ	(118)	更	あらた	(132)	止	た	(145)	素	もと	(161)
識	し	(119)	戚	いた	(132)	市	か	(145)	毎	ごと	(161)
側	かたは	(119)	若	し	(132)	佳	よ	(145)	匿	かく	(162)
六	りく	(119)	寧	やす	(133)	特	た	(145)	事	つか	(162)
扶	たす	(119)	缶	ふ	(133)	需	もと	(145)	宣	の	(162)
承	う	(119)	尚	な	(133)	核	さね	(145)	(孰)与	いづれ	(162)
帳	とぼり	(119)	食	やしな	(133)	納	い	(145)	顧	た	(162)
度	わた	(119)	齒	よはひ	(133)	接	と	(146)	念	おも	(162)
早朝	あさまりごと	(120)	蓋	けだ	(133)	漸	やうや	(146)	郷	む	(164)
粧	よそほ	(120)	(嗚)呼	ああ	(134)	大	の	(146)	欧	は	(164)
列	つら	(120)	属	しよく	(135)	即	つ	(146)	去	をさ	(164)
宛	ゑん	(122)	湯	しやう	(135)	摘	と	(146)	降	くだり	(165)
委	す	(122)	横	ほしいまま	(135)	丁	たう	(146)	单	ぜん	(165)
少	まれ	(122)	覧	み	(135)	荷	にな	(146)	虚	むな	(165)
旋	めぐ	(122)	曜	ひかり	(136)	雑	ま	(146)	婦	つま	(165)
到	いた	(122)	頃	けい	(136)	領	くび	(146)	負	そむ	(165)
信	まか	(123)	璧	たま	(136)	方	はじ	(147)	塗	まみ	(166)
未	び	(123)	(嗟)夫	ああ	(137)	適	まさ	(147)	効	いた	(166)
如何	いかん	(123)	為	しわざ	(137)	適	たまたま	(148)	壺	いつ	(166)
掃	はら	(123)	処	を	(137)	垣	ゑん	(149)	決	わか	(167)
挑	かか	(123)	微	な	(137)	比	ころほひ	(149)	私	ひそ	(168)
与共	とも	(123)	与	か	(137)	陳	の	(150)	係	か	(169)
曾	かつ	(123)	涉	わた	(138)	第	てい	(150)	讓	せ	(169)
教	し	(124)	潰	つひ	(138)	憶	おも	(151)	実	まこと	(169)
排	ひら	(124)	貿	か	(138)	会	たまたま	(151)	頭	あらは	(170)
電	いなづま	(124)	剖	さ	(138)	紀	しる	(151)	庶幾	こひねが	(170)
遍	あまね	(124)	撲	う	(138)	喚	よ	(151)	盟	ちか	(170)
膚	はだへ	(124)	市	う	(138)	排	なら	(151)	任	じん	(171)
参	しん	(124)	頼	よ	(138)	率	おほむね	(151)	易	やす	(171)
差	し	(124)	理	をさ	(139)	長	たけ	(152)	昔者	むかし	(173)
聞道	き	(124)	騎	の	(139)	聴	ゆる	(152)	適	かな	(174)
偏	かたむ	(125)	象	かたど	(139)	昨	きのふ	(153)	与	かな	(174)
睡	ねむ	(125)	疾	にく	(140)	旦	あした	(153)	覺	めざ	(174)
将	もつ	(125)	畝	ほ	(141)	完	まつた	(154)	(嘗)試	ころ	(174)
会	かなら	(125)	故	もと	(142)	和	くわ	(154)	腫	しよう	(175)
詞	ことば	(125)	偶	たまたま	(142)	易	か	(154)	卷	けん	(175)
期	とき	(126)	女	むすめ	(143)	予	あた	(155)	塗	みち	(175)
楽	が	(127)	適	ゆ	(143)	不	いな	(155)	候	ま	(175)

説	よろこ	(177)
蓄	やしな	(177)
死	ころ	(177)
妻	めあは	(178)
娯	たの	(178)
亡	うしな	(178)
窃	ぬす	(180)
当	ごと	(181)
誉	ほ	(181)
情	まこと	(182)
勸	つと	(182)
慮	おもんばか	(183)
滋	ますます	(184)
彰	あきらか	(184)
何若	いかん	(185)
見	ら	(185)
見	る	(185)
若	も	(185)
遺	お	(186)
陽	いつは	(186)
詐	いつはり	(187)
責	もと	(187)

## 出典一覧表

※原文に加除訂正を加えた場合の中で、「高等学校教科用図書検定基準 別表」による表記の変更、および学習しやすくするための振り仮名等の加除、改行、句読点、章番号の加除等は除いた。

(古文編・I部)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
10～12	古典のことばを読み深める —中古・中世・近世の作品から— 伊勢物語「鶉」  平家物語「福原落」  あつめ句「はつゆきや」	国語教材	竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語（新編 日本古典文学 全集12 第1版第1刷）  平家物語 下（新 日本古典文学 大系45 第1刷）  松尾芭蕉集②（新編 日本古典 文学全集71 第1版第3刷）	215  62  203	片桐洋一・福井 貞助・高橋正治 ・清水好子（校 注・訳） 梶原正昭・山下 宏明（校注）  井本農一・久富 哲雄・村松友次 ・堀切実（校注 ・訳）	天野博之（発行 所 小学館）  安江良介（発行 所 岩波書店）  柳町敬直（発行 所 小学館）	平成6年 （1994年）  平成5年 （1993年）  平成15年 （2003年）	改変（別紙①参照）
10	鶉	写真						アフロ提供
14～15 15	宇治拾遺物語 「歌詠みて罪を許さるること」 国司任命状を読み上げる図（絵 師草紙）	国語教材  挿絵	宇治拾遺物語（日本古典文学全 集28 第13版第1刷）	320～321	小林智昭（校注 ・訳）	相賀徹夫（発行 所 小学館）	昭和60年 （1985年）	中野幸一氏提供
17～18 17	古今著聞集 「衣のたて」 馬上の八幡太郎義家〈左から	国語教材  挿絵	古今著聞集（日本古典文学大系 84 第14刷）	272	永積安明・島田 勇雄（校注）	緑川 亨（発行 所 岩波書店）	昭和55年 （1980年）	改変（別紙②参照）  国立歴史民俗博物館提

	三人目) (前九年合戦絵巻)							供
19～21	沙石集 「勘解由小路の地藏」	国語教材	沙石集 (日本古典文学大系85 第1刷)	107～108	渡邊綱也(校注)	岩波雄二郎(発行所 岩波書店)	昭和41年 (1966年)	改変(別紙③参照)
20	馬上の入道(慕帰絵詞模本)	挿絵						東京国立博物館提供
22～31	徒然草 「あだし野の露消ゆるときなく」 「家居のつきづきしく」 「これも仁和寺の法師」 「ある者、子を法師になして」 「主ある家には」	国語教材	方丈記 徒然草(日本古典文学大系30 第29刷)	94～95	西尾 實(校注)	緑川 亨(発行所 岩波書店)	昭和59年 (1984年)	
22	兼好法師(伝狩野探幽筆)	挿絵	同書 同書 同書 同書	97～98 132～133 242～244 278				神奈川県立金沢文庫提供 アマナイメーヅ提供
22脚注4		写真		166				
23	「徒然草絵巻」第七段(海北友雪筆)	挿絵	図説日本の古典10 方丈記・徒然草	111	三木紀人(代表)	堀内末男(発行所 集英社)	昭和55年 (1980年)	
26	御室法師図(英一蝶筆)	挿絵	クリアカラー国語便覧		数研出版編集部(編集)	星野泰也(発行所 数研出版)	平成13年 (2001年)	
28脚注3		挿絵						知恩院提供
30	「徒然草絵巻」第二百三十五段(海北友雪筆)	挿絵						サントリー美術館提供
32～36	方丈記 「行く川の流れ」  「安元の大火・治承のつじ風」	国語教材	方丈記 徒然草 正法眼蔵随聞記 歎異抄(新編日本古典文学全集44 第1版第1刷)	15～16	神田秀夫・永積安明・安良岡康作(校注・訳)	天野博之(発行所 小学館)	平成7年 (1995年)	改変(別紙④参照)
32	鴨長明	挿絵	同書	16～19				神宮文庫提供
34	「安元の大火」関連地図	地図						編集部作成
37	古典世界ビュー ①末世と災害	国語教材						編修委員による書き下ろし
37	「方丈記」写本	写真						京都国立博物館提供

38～41	竹取物語 「天の羽衣」	国語教材	竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語（新編日本古典文学全集12 第1版第1刷）	71～75	片桐洋一・福井貞助・高橋正治・清水好子（校注・訳）	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	
38	別れを悲しむかぐや姫（竹取物語絵巻）	挿絵						国立国会図書館提供
40	かぐや姫を迎えに来た天人たち（竹取物語絵巻）	挿絵						中野幸一氏提供
42～52	伊勢物語 「初冠」	国語教材	竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語（新編日本古典文学全集12 第1版第1刷）	113～114	片桐洋一・福井貞助・高橋正治・清水好子（校注・訳）	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	改変（別紙⑤参照）
	「月やあらぬ」		同書	115～116				
	「行く蛭」		同書	152～153				
	「狩りの使ひ」		同書	172～174				
	比較で深める1 君や来しわれや行きけむ〔古今和歌集〕		古今和歌集（日本古典文学全集7 第21版）	263	小沢正夫（校注・訳）	相賀徹夫（発行所 小学館）	昭和64年（1989年）	
	「つひに行く道」		竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語（新編日本古典文学全集12 第1版第1刷）	216				
42	歌を贈る男（奈良絵本「伊勢物語」）	挿絵						中野幸一氏提供
44	月やあらぬ（奈良絵本「伊勢物語」）	挿絵						國學院大學図書館提供
45	「伊勢物語」人物系図	挿絵						編集部作成
46	行く蛭（奈良絵本「伊勢物語」）	挿絵						國學院大學図書館提供
48	狩りの使ひ（奈良絵本「伊勢物語」）	挿絵						國學院大學図書館提供
52	在原業平（案本一洋筆「伊勢物語」）	挿絵						神宮徴古館提供
53～54	大和物語 「姨捨」	国語教材	竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語（新編日本古典文学全集12 第1版第1刷）	391～392	片桐洋一・福井貞助・高橋正治	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	改変（別紙⑥参照）

54	更級に照る月	写真	全集12 第1版第1刷)		・清水好子 (校注・訳)			サイネットフォト提供
56	比較で深める2 夜もすがら月を見て、ながめける歌 [俊頼髓脳]	国語教材	歌論集 (新編日本古典文学全集87 第1版第1刷)	151~152	橋本不美男・有吉保・藤平春男 (校注・訳)	柳町敬直 (発行所 小学館)		風俗博物館提供 編修委員による書き下ろし アマナイメーجز提供
56脚注4	古典世界ワイドビュー ②詠	写真						
57	み人知らず	国語教材						
57	冠着山 (姨捨山)	写真						
58~62	更級日記 「門出」	国語教材	和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記 (新編日本古典文学全集26 第1版第1刷)	279~280	藤岡忠美・中野幸一・犬養廉・石井文夫 (校注・訳)	天野博之 (発行所 小学館)	平成6年 (1994年)	
58	「物語」 薬師仏に祈る孝標女 (佐多芳郎筆「更級日記」)	挿絵	同書	296~299				大佛次郎記念館提供
60	石山寺に参籠する孝標女 (石山寺縁起絵巻)	挿絵						石山寺提供
64~65	コラム 1 女手 (平仮名) と平安時代の文学	国語教材						編修委員による書き下ろし
65	三十六人家集 貫之集上	写真						五島美術館提供
66~72	枕草子 「うつくしきもの」 「木の花は」 「中納言参りたまひて」 「雪のいと高う降りたるを」	国語教材	枕草子 紫式部日記 (日本古典文学大系19 第27刷)	206~207	池田亀鑑・岸上慎二・秋山虔 (校注)	緑川 亨 (発行所 岩波書店)	昭和60年 (1985年)	改変 (別紙⑦参照)
66脚注2		挿絵	同書	83~84				編集部作成
69	紅梅	写真	同書	157				アマナイメーجز提供
			同書	310~311				

69	桜 (山桜)	写真						アマナイメージズ提供
69	藤	写真						アマナイメージズ提供
69	橘	写真						アマナイメージズ提供
69	梨	写真						アマナイメージズ提供
69	桐	写真						アマナイメージズ提供
69	棟	写真						アマナイメージズ提供
70	「枕草子」人物系図	挿絵						編集部作成
72	香炉峰の雪 (土佐光起筆「清少納言図」)	挿絵						東京国立博物館提供
73	古典世界ビュー ③平安朝の女性と漢文	国語教材						編修委員による書き下ろし
73	中宮定子と女房たち (「白描枕草子絵詞」)	挿絵						個人蔵
74～84	大鏡 「雲林院の菩提講」 「花山院の出家」  「三船の才」 「道長と伊周の競射」	国語教材	大鏡 (新編日本古典文学全集 3 4 第1版第4刷) 大鏡 (新編日本古典文学全集 3 4 第1版第2刷) 同書 同書	13～17 45～48 115～116 324～326	橘 健二・加藤 静子(校注・訳) 橘 健二・加藤 静子(校注・訳)	柳町敬尚 (発行 所 小学館) 天野博之 (発行 所 小学館)	平成16年 (2004年) 平成10年 (1998年)	改変 (別紙⑧参照)
74	藤原氏人物系図	挿絵						編集部作成
75	雲林院の菩提講 (大かゞみ絵詞)	挿絵						国立歴史民俗博物館提供
81	大堰川舟遊図屏風 (浮田一蕙筆)	挿絵						泉涌寺提供
83	道長と伊周の競射 (大かゞみ絵詞)	挿絵						国立歴史民俗博物館提供
80	古典世界ビュー ④不本意な出家	国語教材						編修委員による書き下ろし
80	出家する花山天皇 (大かゞみ絵詞)	挿絵						国立歴史民俗博物館提供
86～87	構成と概観「平家物語」	国語教材						執筆協力者による書き下ろし
86～87		地図						編集部作成

88～98	平家物語 「忠度の都落ち」 「宇治川の先陣」 「先帝入水」	国語教材	平家物語②（新編日本古典文学全集 46 第1版 第4刷） 同書 同書	74～77  165～168 379～383	市古貞次（校注・訳）	柳町敬直（発行所 小学館）	平成16年（2004年）	改変（別紙⑨参照）  林原美術館提供  愛知県美術館提供
93	宇治川の先陣争い（平家物語絵巻）	挿絵						
95	「佐々木高綱被甲図」（川崎千虎筆）	挿絵						
100～105	平家物語	国語教材	無常という事（角川文庫 改版 37版）	64～67	小林秀雄	角川春樹（発行所 角川書店）	昭和60年（1985年）	改変（別紙⑩参照）  フォトライブラリー提供
102～103		写真						
106～107	構成と概観「源氏物語」	国語教材						編修委員による書き下ろし 中野幸一氏提供
106	高麗人の観相（源氏物語画帖）	挿絵						徳川美術館提供
107	薫を抱く源氏（源氏物語絵巻）	挿絵						宇治市源氏物語ミュージアム提供
107	浮舟を訪ねる小君（源氏絵鑑帖）	挿絵						
108～118	源氏物語 「光源氏の誕生」	国語教材	源氏物語①（新編日本古典文学全集20 第1版第1刷）	17～20	阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男（校注・訳）	渡邊静夫（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	改変（別紙⑪参照）  編集部作成 編集部作成 中野幸一氏提供
	「光源氏と藤壺」 「若紫との出会い」		同書 同書	43～44 205～209				編修委員による書き下ろし
108	「光源氏の誕生」人物系図	挿絵						
114	「若紫との出会い」人物系図	挿絵						
116	若紫（源氏物語画帖）	挿絵						
119	古典世界ビュー ⑤垣間見	国語教材						
119	伊勢物語絵巻（住吉如慶筆）	挿絵						東京国立博物館提供



	「めぐり逢ひて……」		新古今和歌集（新日本古典文学大系11 第二刷）	438	同前	同前	同前	
	「長らへば……」		新古今和歌集（新日本古典文学大系11 第二刷）	536	同前	同前	同前	
	「箱根路を……」		新編国歌大観第一巻（勅撰集編 歌集 四版）	315	同前	同前	同前	
	「われこそは……」		神皇正統記 増鏡（日本古典文学大系87 第17刷）	279	岩佐 正・時枝誠記・木藤才蔵（校注）	緑川 亨（発行所 岩波書店）	昭和57年（1982年）	
	「人の親の……」		後撰和歌集（新日本古典文学大系6 第三刷）	327	片桐洋一（校注）	安江良介（発行所 岩波書店）	平成5年（1993年）	
123	和泉式部（佐多芳郎筆「蛩」）	挿絵						佐多匡子氏提供
125	明石海峡の夕景（奥が、松帆の浦のある淡路島）	写真						アマナイメーヅ提供
127	隠岐	写真						サイネットフォト提供
129	古典世界ビュー ⑥小倉百人一首	国語教材						編修委員による書き下ろし
129	小倉山の定家（下村観山筆「小倉山」）	挿絵						下村茂氏提供
130	活動のプロセス1 和歌の魅力を伝える	国語教材						執筆協力者による書き下ろし
131～139	発句 「鶯や……」  「蛸壺や……」 「病雁の……」 「初しぐれ……」 「海暮れて……」 「しら梅に……」  「夏河を……」 「御手討の……」	国語教材	芭蕉句集（日本古典文学大系45 第1刷）	33	大谷篤蔵・中村俊定（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和37年（1962年）	改変（別紙⑬参照）
			同書	79				
			同書	163				
			同書	199				
			同書	228				
			蕪村集 一茶集（日本古典文学大系58 第11刷）	70	暉峻康隆・川島つゆ（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和46年（1971年）	
			同書	95				
			同書	100				

	「方百里……」 「愁ひつつ……」 「鳥羽殿へ……」 「目出度さも……」 「雪とけて……」 「わんぱくや……」 「是がまあ……」 「つぶ濡れの……」 比較で深める3 三冊子「俳諧の誠」		同書 同書 同書 同書 同書 同書 同書 同書 連歌論集 能楽論集 俳論集 (新編 日本古典文学全集 第1 版第1刷)	126 128 148 434 325 460 355 360 553							
131	連句 芭蕉 (蕪村筆)	国語教材	芭蕉七部集 (新日本古典文学大 系70 第1刷)	327~331	白石悌三・上野 洋三 (校注)	柳町敬直 (発行 所 小学館)	平成13年 (2001年)	改変 (別紙⑭参照)			
132	蕪村 (松村月溪筆)	挿絵				緑川 亨 (発行 所 岩波書店)	平成2年 (1990年)		逸翁美術館提供		
133	一茶 (村松春甫筆)	挿絵							京都国立博物館提供		
137	長き脇指	挿絵							一茶記念館提供		
140~141	活動のプロセス2 〈座〉の文芸 連句を楽しむ	国語教材							東京国立博物館提供		
141	江戸時代の俳諧の座 (「男重宝記」)	挿絵							執筆協力者による書き 下ろし 国立国会図書館提供		
142~143	私たちの古典受容 一訳から広がる新しい世界— ①難波湯… (小倉百人一首) 訳 ②立石寺 (奥の細道) 訳	国語教材	新古今和歌集 (新 日本古典文 学大系11 第2刷) 千年後の百人一首 (初版第1刷) 松尾芭蕉集 (日本古典文学全集 41 第19版) 日本文学全集12 (初版)	314 19 367~368 35	田中裕・赤瀬信 吾 (校注) 清川あさみ・最 果タヒ (著者) 井本農一・堀信 夫・村松友次 (校注・訳) 池澤夏樹 (個人 編集)、松浦寿	安江良介 (発行 所 岩波書店) 孫家邦 (発行所 株式会社リトル ・モア) 相賀徹夫 (発行 所 小学館) 小野寺優 (発行 所 河出書房新	平成6年 (1994年) 平成29年 (2017年) 昭和64年 (1989年) 平成28年 (2016年)				

142	絵 歌に込められた思いを表現した作品	挿絵	千年後の百人一首 (初版第1刷)	18	輝 (選訳)、辻原登・長谷川權 (撰者)、丸谷才一・大岡信・高橋治 (著者) 清川あさみ・最果タヒ (著者)	社) 孫家邦 (発行所 株式会社リトル・モア)	平成29年 (2017年)	株式会社リトル・モア提供
144～149	日本永代蔵 「世界の借屋大将」	国語教材	西鶴集下 (日本古典文学大系48 第1刷)	59～63	野間光辰 (校注)	岩波雄二郎 (発行所 岩波書店)	昭和35年 (1960年)	国立国会図書館提供
144	商家の店先 (「日本永代蔵」 版本挿絵)	挿絵						久保克敬氏提供
146	「浪華西鶴翁像」 (芳賀一晶筆)	挿絵						
150	コラム3 守銭奴から商人の鑑へ	国語教材						編修委員による書き下ろし
151～156	雨月物語 「浅茅が宿」	国語教材	上田秋成全集 第七巻	251～255	上田秋成全集編集委員会 (代表 中村幸彦)	嶋中鵬二 (発行所 中央公論社)	平成2年 (1990年)	改変 (別紙⑮参照)
157	古典世界ビュー ⑦待つ女	国語教材						編修委員による書き下ろし
157	浅茅が宿 (森田曠平筆)	挿絵						アート・ワン提供
158～159	継母との別れ	国語教材	和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記 (新編日本古典文学全集 26 第1版第1刷)	295～296	藤岡忠美・中野幸一・犬養廉・石井文夫 (校注・訳)	天野博之 (発行所 小学館)	平成6年 (1994年)	
160～161	旧都の月	国語教材	平家物語① (新編日本古典文学全集45 第1版第4刷)	357～358	市古貞次 (校注・訳)	柳町敬直 (発行所 小学館)	平成15年 (2003年)	
162～165	文法の要点1・識別	国語教材						編集部作成

166～167	文法の要点2・敬語	国語教材						編集部作成 編集部作成
168～170	文法の要点3・和歌	国語教材						
168	「山里は……」	国語教材	古今和歌集（新日本古典文学大系5 第一刷）	105	小島憲之・新井栄蔵（校注）	緑川 亨（発行所 岩波書店）	平成元年（1989年）	
169	「秋なれば……」	国語教材	同書	182				
169	「瀬をはやみ……」	国語教材	金葉和歌集 詞花和歌集（新日本古典文学大系9 第二刷）	288	川村晃生・柏木由夫・工藤重矩（校注）	安江良介（発行所 岩波書店）	平成6年（1994年）	
170	「音にのみ……」	国語教材	土佐日記 蜻蛉日記（新編日本古典文学全集13 第1版第1刷）	90	菊地靖彦・木村正中・伊牟田経久（校注・訳）	上野明雄（発行所 小学館）	平成7年（1995年）	
170	「語らはむ……」	国語教材	同書	91				

(古文編・Ⅱ部)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
172～181	枕草子 「すさまじきもの」	国語教材	枕草子 紫式部日記（日本古典文学大系19 第27刷）	64～67	池田亀鑑・岸上慎二・秋山 虔（校注）	緑川 亨（発行所 岩波書店）	昭和60年（1985年）	改変（別紙①参照）
	「野分のまたの日こそ」		同書	243～244				
	「二月つごもりごろに」		同書	165～166				
	「大納言殿参りたまひて」		同書	318～319				
175	萩	写真						アマナイメーヅ提供
175	女郎花	写真						アマナイメーヅ提供
182～185	蜻蛉日記 「嘆きつつひとり寝る夜」	国語教材	土佐日記 蜻蛉日記（新編日本古典文学全集13 第1版第1刷）	99～101	菊地靖彦・木村正中・伊牟田経久（校注・訳）	上野明雄（発行所 小学館）	平成7年（1995年）	
182	「鷹を放つ」 右大将道綱母（狩野探幽筆「百人一首画帖」）	挿絵	同書	200～202				

185	鷹（春日権現験記模本）	挿絵						東京国立博物館提供
187～191	和泉式部日記 「夢よりもはかなき世の中を」	国語教材	和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記（新編日本古典文学全集26 第1版第1刷）	17～19	藤岡忠美・中野幸一・犬養廉	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	改変（別紙②参照）
187	「有明の月に」 和泉式部（百人一首画帖模本）	挿絵	同書	47～48	・石井文夫（校注・訳）			東京国立博物館提供
193～197	紫式部日記 「水鳥に思いよそえて」	国語教材	和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記（新編日本古典文学全集26 第1版第1刷）	151～152	藤岡忠美・中野幸一・犬養廉	天野博之（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	改変（別紙③参照）
193	「日本紀の御局」 竜頭鷗首船を見る道長（紫式部日記絵巻）	挿絵	同書	208～210	・石井文夫（校注・訳）			藤田美術館提供
195	中宮彰子（左）に「楽府」を教える紫式部（紫式部日記絵巻）	挿絵						日本古典文学会提供
198～201	建礼門院右京大夫集 「かかる夢見ぬ人やいひけむ」 「今や夢昔や夢と」	国語教材	建礼門院右京大夫集（新編日本古典文学全集47 第1版第1刷）	111～112	久保田淳（校注・訳）	上野明雄（発行所 小学館）	平成11年（1999年）	改変（別紙④参照）
198	平資盛	挿絵	同書 「平家物語絵巻」（別冊太陽第13号）	120～122 137	馬場一郎	馬場一郎（発行所 平凡社）	昭和50年（1975年）	
200	建礼門院徳子（左）（下村観山筆「大原之露」）	挿絵						茨城県近代美術館提供
202～225	源氏物語 「藤壺の里下がり」	国語教材	源氏物語①（新編日本古典文学全集20 第1版第1刷）	230～235	阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男（校注・訳）	渡邊静夫（発行所 小学館）	平成6年（1994年）	改変（別紙⑤参照）
	「葵上と物の怪」		源氏物語②（新編日本古典文学全集21 第1版第2刷）	37～42	阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男	上野明雄（発行所 小学館）	平成8年（1996年）	

	「柏木と女三宮」		源氏物語④（新編日本古典文学全集23 第1版第2刷）	140～143	(校注・訳) 阿部秋生・秋山 虔・今井源衛 ・鈴木日出男 (校注・訳)	上野明雄（発行 所 小学館）	平成8年 (1996年)	
	「紫上の死」 「匂宮と浮舟」		同書 源氏物語⑥（新編日本古典文学全集25 第1版第1刷）	503～506 148～151	阿部秋生・秋山 虔・今井源衛 ・鈴木日出男 (校注・訳)	上野明雄（発行 所 小学館）	平成10年 (1998年)	
204	京都御所・承明門	写真						サイネットフォト提供
207	車争い（源氏物語画帖）	挿絵						東京国立博物館提供
209	生き霊となった六条御息所(上村松園筆「焰」)	挿絵						東京国立博物館提供
212	「柏木と女三宮」人物系図	挿絵						編集部作成
214	蹴鞠（源氏物語図帖「若菜上」）	挿絵						京都国立博物館提供
219	源氏〈中央〉と紫上〈右奥〉、明石中宮〈右手前〉（源氏物語絵巻）	挿絵						五島美術館提供
222	「匂宮と浮舟」人物系図	挿絵						編集部作成
225	「浮舟」（佐多芳郎筆）	挿絵						佐多匡子氏提供
221	コラム4 原文を読み解く魅力	国語教材						編修委員による書き下ろし
227～229	堤中納言物語 「虫めづる姫君」	国語教材	落窪物語 堤中納言物語（新編日本古典文学全集17 第1版第1刷）	443～445	三谷栄一・三谷 邦明・稲賀敬二 (校注・訳)	上野明雄（発行 所 小学館）	平成元年 (1989年)	
227脚注5		挿絵						編集部作成
230～231	活動のプロセス3 古典作品における価値観を探る	国語教材						執筆協力者による書き下ろし

232～235 232脚注3	松浦宮物語 「梅里の一夜」	国語教材 挿絵	松浦宮物語 無名草子（新編日本古典文学全集40 第1版第2刷）	85～88	樋口芳麻呂・久保木哲夫（校注・訳）	柳町敬直（発行所 小学館）	平成18年（2006年）	編集部作成
230 236	古今和歌集仮名序 「やまと歌は」 古今和歌集（元永本）	国語教材 写真	古今和歌集（日本古典文学大系8 第9刷）	93	佐伯梅友（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和33年（1958年）	改変（別紙⑥参照） 東京国立博物館提供
237～239 238	俊頼髓脳 「和歌の効用」 貫之蟻通社頭図（英一蝶筆）	国語教材 挿絵	歌論集（新編日本古典文学全集87 第1版第1刷）	48～49	橋本不美男・有吉保・藤平春男（校注・訳）	柳町敬直（発行所 小学館）	平成14年（2002年）	個人（匿名）より提供（協力：文化庁）
240～241 240	無名抄 「俊成自賛歌のこと」 俊恵法師（釈教三十六人歌仙）	国語教材	歌論集 能楽論集（日本古典文学大系65 第1刷）	73～74	久松潜一・西尾實（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和36年（1961年）	改変（別紙⑦参照） 国立公文書館提供
243～245 243	去来抄 「行く春を」 「岩鼻や」 春の琵琶湖	国語教材 写真	連歌論集 能楽論集 俳論集（新編日本古典文学全集88 第1版第1刷） 同書	285～287 442～443	奥田勲・表章・堀切実・復本一郎（校注・訳）	柳町敬直（発行所 小学館）	平成13年（2001年）	サイネットフォト提供
247～248 247	三冊子 「師の風雅」 土芳の住居であった蓑虫庵	国語教材 写真	連歌論集 能楽論集 俳論集（新編日本古典文学全集88 第1版第1刷）	575～576	奥田勲・表章・堀切実・復本一郎（校注・訳）	柳町敬直（発行所 小学館）	平成13年（2001年）	改変（別紙⑧参照） 芭蕉翁顕彰会提供
250～258	大鏡 「菅原道真の左遷」 「道長の豪胆」	国語教材	大鏡（新編日本古典文学全集34 第1版第4刷） 同書	73～91 317～321	橘健二・加藤静子（校注・訳）	柳町敬尚（発行所 小学館）	平成16年（2004年）	改変（別紙⑨参照）

250	菅原道真（東帯天神像）	挿絵						荏柄天神社提供
253	雷神となった道真（北野天神 縁起絵巻）	挿絵						北野天満宮提供
254	藤原氏人物系図	挿絵						編集部作成
255	大内裏部分略図	地図						編集部作成
257	帰ってきた道隆と道兼（大か ゞみ絵詞）	挿絵						国立歴史民俗博物館提 供
259～263	古事記 「倭建命」	国語教材	古事記 祝詞（日本古典文学大 系1 第36刷）	211～223	倉野憲司・武田 祐吉（校注）	緑川 亨（発行 所 岩波書店）	平成2年 （1990年）	改変（別紙⑩参照）
260	「草薙の剣」（安田鞞彦筆）	挿絵						川崎市民ミュージアム 提供
264～265	無名草子 「小野小町」	国語教材	完訳 日本の古典 第二十七巻 堤中納言物語 無名草子	284～285	稲賀敬二・久保 木哲夫（校注・ 訳）	相賀徹夫（発行 所 小学館）	昭和62年 （1987年）	
264	「草子洗小町」（上村松園筆）	挿絵						東京藝術大学大学美術 館提供
267～269	風姿花伝 「秘する花を知ること」	国語教材	連歌論集 能楽論集 俳論集 （新編日本古典文学全集88 第 1版第1刷）	285～287	奥田 勲・表 章・堀切 実・ 復本一郎（校注 ・訳）	柳町敬直（発行 所 小学館）	平成13年 （2001年）	
267	風姿花伝（世阿弥直筆本）	写真						観世宗家提供
270～271	難波土産 「虚実皮膜の論」	国語教材	近松浄瑠璃集下（日本古典文学 大系50 第11刷）	358～359	守随憲治・大久 保忠國（校注）	岩波雄二郎（発 行所 岩波書 店）	昭和46年 （1971年）	改変（別紙⑪参照）
271	近松門左衛門	挿絵	図説日本の古典 16 近松門 左衛門	7	諏訪春雄（代表）	堀内末男（発行 所 集英社）	昭和55年 （1980年）	
272～274	玉勝間 「師の説になづまざること」	国語教材	本居宣長（日本思想大系40 第 1刷）	72～73	吉川幸次郎・佐 竹昭広・日野龍 夫（校注）	岩波雄二郎（発 行所 岩波書 店）	昭和53年 （1978年）	
272	宣長四十四歳自画自賛像	挿絵						本居宣長資料館提供

276～277	源氏物語玉の小櫛 「もののあはれ」	国語教材	近世文学論集（日本古典文学大系94 第1刷）	113～114	中村幸彦（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和41年（1966年）	
278～279	柴門の辞 「風雅の道」	国語教材	芭蕉文集（日本古典文学大系46 第11刷）	205～206	杉浦正一郎・宮本三郎・荻野清（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和44年（1969年）	改変（別紙⑫参照）
280～282	おらが春 「娘 さと」	国語教材	蕪村集 一茶集（日本古典文学大系58 第11刷）	457～458	暉峻康隆・川島つゆ（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和46年（1971年）	
282～284	雲萍雑誌 「堪忍」	国語教材	日本随筆大成 新装版〈第二期〉4 第1刷	273～274	日本随筆大成編集部	吉川圭三（発行所 吉川弘文館）	平成6年（1994年）	改変（別紙⑬参照）
283	「雲萍雑誌」初版本	写真						埼玉県立図書館提供
285～287	曾根崎心中 「徳兵衛お初道行」	国語教材	近松門左衛門集②（新編日本古典文学全集75 第1版第3刷）	36～38	鳥越文蔵・山根為雄・長友千代治・大橋正叔・阪口弘之（校注・訳）	柳町敬直（発行所 小学館）	平成15年（2003年）	
285	道行（文楽「曾根崎心中」）	写真						国立劇場提供
288～289	「にほどりの……」  「この里に……」 「召せや召せ……」 「楽しみは……」 「わが酒の……」	国語教材	近世和歌集（日本古典文学大系93 第8刷）	75	高木市之助・久松潜一（校注）	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和51年（1976年）	改変（別紙⑭参照）
			同書	180				
			同書	378				
			同書	429				
			大隈言道	108	佐佐木信綱	佐佐木信綱	大正7年（1918年）	
288	「良寛とともに」（水江東穹筆）	挿絵						水江東穹氏提供
289		写真	大英博物館秘蔵「江戸美術展」	84	電通（制作・編	東京ルネッサン	平成2年	

					集)	ス推進委員会	(1990年)	
290	狂歌 「女郎花……」  「借金も……」 「歌詠みは……」	国語教材	黄表紙 川柳 狂歌 (日本古典文学全集46 第12版)  同書 同書	459  483 533	浜田義一郎・鈴木勝忠・水野稔 (校注)	相賀徹夫 (発行所 小学館)	昭和60年 (1985年)	
291	コラム5 国語教科書の源流―「往来物」の話	国語教材						編修委員による書き下ろし
292	建礼門院右京大夫集 「星の夜の深きあはれ」	国語教材	建礼門院右京大夫集 とはずがたり (新編日本古典文学全集47 第1版第3刷)	127	久保田淳 (校注・訳)	蔵 敏則 (発行所 小学館)	平成11年 (1999年)	
294～295	太平記 「天下怪異のこと」	国語教材	太平記 (四) (岩波文庫 第1刷)	325～326	兵藤裕己 (校注)	岡本 厚 (発行所 岩波書店)	平成27年 (2015年)	
296～297	夜空を詠んだ和歌・俳諧 「あまの原……」  「月見れば……」 「恋ひ恋ひて……」 「秋風に……」  「中中に……」  「うつくしや……」	国語教材	古今和歌集 (日本古典文学全集7 第21版) 同書 同書 新古今和歌集 (日本古典文学全集26 第17版) 蕪村集 一茶集 (日本古典文学大系58 第11刷)  同書	190 122 117 146 142 344	小沢正夫 (校注・訳)  峯村文人 (校注・訳) 暉峻康隆・川島つゆ (校注)	相賀徹夫 (発行所 小学館)  相賀徹夫 (発行所 小学館) 岩波雄二郎 (発行所 岩波書店)	平成元年 (1989年)  平成元年 (1989年) 昭和46年 (1971年)	

## (漢文編・I部)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
10～12	古典のことばを読み深める —漢詩・寓話・故事を通じて— 彭城集「新晴」	国語教材	宋詩選(筑摩叢書74 初版第1刷)	70	小川環樹	竹之内静雄(発行所 筑摩書房)	昭和42年 (1967年)	
	漢訳伊蘇普譚「蜂針人熊」		漢訳伊蘇普譚	17	阿部弘国(訓点者)	青山清吉	明治9年 (1876年)	
	説苑「不以私事害公義」		故事・寓話 I (漢詩・漢文解釈講座第15巻 初版)	80	石川忠久・内山知也・加藤道理(監修)、漢詩・漢文教材研究会(編集)	江藤昌治(発行所 昌平社)	平成7年 (1995年)	
14	画竜点睛	国語教材	歴代名画記(第2刷)	198～199	小野勝年(訳注)	緑川 亨(発行所 岩波書店)	昭和60年 (1985年)	改変(別紙①参照)
15	漱石枕流	国語教材	世説新語(下)(新釈漢文大系第78巻 7版)	982	目加田誠	三樹 彰(発行所 明治書院)	昭和61年 (1986年)	改変(別紙②参照)
16	病入膏肓	国語教材	春秋左氏伝(二)(新釈漢文大系第31巻 13版)	749～750	鎌田 正	三樹 彰(発行所 明治書院)	平成元年 (1989年)	改変(別紙③参照)
17～18	梁上君子	国語教材	後漢書	2067	范曄撰・李賢等(注)	中華書局香港分局 人民美術出版社(上海)	昭和46年 (1971年) 平成2年 (1990年)	改変(別紙④参照)
17	梁上君子(中国成語故事)	挿絵	中国成語故事(第三冊)					
19	先従隗始	国語教材	十八史略(上)(新釈漢文大系第20巻 26版)	140～142	林 秀一	三樹 彰(発行所 明治書院)	昭和54年 (1979年)	改変(別紙⑤参照)
19	昭王	挿絵						シーピーシー・フォト

								提供
20～21	杞憂	国語教材	列子（新釈漢文大系 第22巻 1 4版）	48	小林信明	三樹 彰（発行 所 明治書院）	昭和51年 （1976年）	改変（別紙⑥参照） 編修委員による書き下 ろし
22	古典世界ビュー ①故事成語の 来歴	国語教材						
23～25	赤壁の戦い	国語教材	三国志（三国志 第五冊 巻46 至65）	140～142	晋 陳壽撰・宋 裴松之注	中華書局	昭和24年 （1949年）	編集部作成  編集部作成  編集部作成
27	比較で深める 1 赤壁	国語教材	新編 中国名詩選（下）（第4刷）	137	川合康三（編訳）	岡本厚（発行所 岩波書店）	令和元年 （2019年）	
27脚注1		挿絵						
23	「赤壁の戦い」関係地図	地図						
24	煙炎天に張り、人馬焼溺す（中 国成語故事）	挿絵	中国成語故事（第二冊）			人民美術出版社 （上海）	平成2年 （1990年）	
26	三国時代地図	地図						
28～29	構成と概観「史記」	国語教材						編修委員による書き下 ろし 東北大学附属図書館提 供 シーピーシー・フォト 提供
28	「史記」写本	写真						
28	司馬遷	挿絵						
30～32	背水の陣	国語教材	史記（新釈漢文大系 第90巻 1 版）	120～121	水沢利忠	三樹 讓（発行 所 明治書院）	平成8年 （1996年）	改変（別紙⑦参照） 編修委員による書き下 ろし 編集部作成
33	古典世界ビュー ②戦術	国語教材						
33	井陘口の戦い関係図	地図						
34	秋風引	国語教材	唐詩選（新釈漢文大系 第19巻 30版）	646	目加田誠	三樹 彰（発行 所 明治書院）	昭和57年 （1982年）	改変（別紙⑧参照）
35	雑詩	国語教材	唐詩三百首詳解 上巻（初版）	151	田部井文雄	鈴木荘夫（発行	昭和63年	

35		写真				所 大修館書店	(1988年)	編集部撮影
36	望廬山瀑布	国語教材	李太白詩集 下巻 (続国訳漢文大成 文学部第三巻 複版)	252	鶴田久作	東洋文化協会(発行所 東洋文化協会)	昭和33年(1958年)	改変 (別紙⑨参照)
36	廬山	写真						サイネットフォト提供
37	芙蓉楼送辛漸	国語教材	唐詩選 (新釈漢文大系 第19巻 30版)	691~692	同前	同前	同前	
38	臨洞庭	国語教材	唐詩選 (新釈漢文大系 第19巻 30版)	330	同前	同前	同前	改変 (別紙⑩参照)
38	岳陽楼と洞庭湖	写真						サイネットフォト提供
39	登高	国語教材	唐詩選 (新釈漢文大系 第19巻 30版)	579~580	同前	同前	同前	
40~41	活動のプロセス1 漢詩の鑑賞文を書く	国語教材						執筆協力者による書き下ろし
42	桃夭	国語教材	詩経 (国訳漢文大成 経子史部第三巻 複版)	20~21	鶴田久作	東洋文化協会(発行所 東洋文化協会)	昭和31年(1956年)	改変 (別紙⑪参照)
43	行行重行行	国語教材	文選下 (新釈漢文大系 第15巻 初版)	554	内田泉之助・網祐次	文入宗義 (発行所 明治書院)	昭和39年(1964年)	改変 (別紙⑫参照)
44	七歩詩	国語教材	世説新語 (上) (新釈漢文大系 第76巻 7版)	307	目加田誠	三樹 彰 (発行所 明治書院)	昭和57年(1982年)	
44~45	勅勒歌	国語教材	古詩賞析 (漢文大系 第十八巻 増補三版)	16	島田鈞一・岡田正之 (校訂)	坂本起一 (発行所 富山房)	昭和53年(1978年)	改変 (別紙⑬参照)
46	古典世界ビュー ③古体詩の役割	国語教材						編修委員による書き下ろし
46	「長恨歌」(寺崎廣業筆)	挿絵						秋田県立近代美術館提供

								供
47 47脚注5	対花懐昔	国語教材 写真	日本漢文（漢文名作選5 初版）	31～32	鎌田 正（監修） 菅野礼行・国金海 二（執筆）	鈴木敏夫（発行 所 大修館書店）	昭和59年 （1984年）	ユニフォトプレス提供
48 48	題不識庵撃機山図 川中島合戦図屏風	国語教材 挿絵	日本漢詩（上）（新釈漢文大系 第45巻 初版）	234	猪口篤志	三樹 彰（発行 所 明治書院）	昭和47年 （1972年）	岩国美術館提供
49 49脚注4	夏夜	国語教材 写真	日本漢文（漢文名作選5 初版）	123	同前	同前	同前	イメージナビ提供
50	思君	国語教材	逍遙遺稿 外編（名著復刻 詩 歌文学館〈紫陽花セット〉）	12	中野逍遙	中森蒔人（発行 所 ほるぶ）	昭和58年 （1983年）	
51	コラム1 日本漢詩—模倣から創作、そし て鑑賞する古典へ	国語教材						編修委員による書き下 ろし
52～53	川中島の戦い	国語教材	日本漢文（漢文名作選5 初版）	160～162	同前	同前	同前	改変（別紙⑭参照）
54～55	私たちの古典受容 —訳から広がる新しい世界— ①白居易「村夜」 訳「むらのよる」 ②陸游「泛瑞安江風濤貼然」 訳「空の青 水の青」	国語教材	宋本白氏文集（第1版第1刷） 白楽天詩集（平凡社ライブラリ —258 初版第1刷） 劔南詩稿校注（中国古典文學叢 書 第1版第1刷） 陸集詩集（中国の詩集⑨ 初版）	165～166 367 30 13	黄静 武部利男（編訳） 錢仲聯（校注） 石川忠久（訳）	國家圖書館出版 社 下中弘（発行所 平凡社） 上海古籍出版社 角川源義（発行 所 角川書店）	平成29年 （2017年） 平成10年 （1998年） 昭和60年 （1985年） 昭和48年 （1973年）	
56～57	春夜宴桃李園序	国語教材	古文真宝（後集）（新釈漢文大系）	101～102	星川清孝	三樹 彰（発行	昭和50年	

57	「桃李園図」(仇英筆)	挿絵	第16巻 22版)			所 明治書院)	(1975年)	京都国立博物館提供
58～60	桃花源記	国語教材	陶淵明集 王右丞集 (続国訳漢文大成 文学部第二十四巻 複版)	287～289	鶴田久作	東洋文化協会(発行所 東洋文化協会)	昭和32年(1957年)	改変 (別紙⑮参照)
58	陶潜	挿絵						シーピーシー・フォト提供
61	古典世界ビュー ④桃源郷	国語教材						編修委員による書き下ろし
62～63	師説	国語教材	唐宋八大家文読本 (一) (新釈漢文大系 第70巻 4版)	84～86	星川清孝	三樹 彰 (発行所 明治書院)	昭和55年(1980年)	改変 (別紙⑯参照)
62	韓愈	挿絵						シーピーシー・フォト提供
65～75	鴻門之会	国語教材	史記 (二) (新釈漢文大系 第39巻 7版)	455～464	吉田賢抗	三樹 彰 (発行所 明治書院)	昭和52年(1977年)	改変 (別紙⑰参照)
65	漢・楚抗争地図	地図						編集部作成
66	玉玦	写真						シーピーシー・フォト提供
71	樊噲	写真						シーピーシー・フォト提供
72脚注7	璧	挿絵						編集部作成
73	張良	写真						シーピーシー・フォト提供
69	古典世界ビュー ⑤名場面の描写	国語教材						編修委員による書き下ろし
69	「鴻門会」(安田靫彦筆)	挿絵						東京国立近代美術館提供
76	比較で深める2 留侯論	国語教材	文章Ⅱ (唐代以降) (漢詩・漢文解釈講座第14巻)	639	石川忠久・内山知也・加藤道理 (監修)	江藤昌治 (発行所 昌平社)	平成7年(1995年)	
77	范増論	国語教材	文章Ⅱ (唐代以降) (漢詩・漢文)	612	同前	同前	同前	

			解釈講座第14巻)					
78～82	四面楚歌	国語教材	史記（二）（新釈漢文大系 第39巻 7版）	493～498	同前	同前	同前	改変（別紙⑱参照）
78	垓下古戦場	写真						サイネットフォト提供
83～85	論語 「子曰、『道之以政、……』 「子曰、『由、誨女知之乎。……』 「子曰、『不憤不啓。……』 「子曰、『三人行、……』 「子貢問、『師与商也……』 「司馬牛問君子。……」 「在陳絶糧。從者……」	国語教材	論語（新釈漢文大系 第一巻 改訂13版） 同書  同書 同書 同書 同書 同書	39～40  53  156 167 243 262 337	吉田賢抗	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和57年（1982年）	
85	孔子	挿絵						シーピーシー・フォト提供
86～88	孟子 「四端」 「性善」	国語教材	孟子（新釈漢文大系 第4巻 46版） 同書	110～112  379～380	内野熊一郎	三樹 讓（発行所 明治書院）	平成6年（1994年）	
86	孟子	挿絵						シーピーシー・フォト提供
89～92	荀子 「学不可以已」 「星隊木鳴」	国語教材	荀子（上）（新釈漢文大系 第5巻 初版） 荀子（下）（新釈漢文大系 第6巻 11版） 同書	15～16  486  687	藤井専英  藤井専英	文入宗義（発行所 明治書院） 三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和41年（1966年） 昭和51年（1976年）	改変（別紙⑲参照）
77	「性悪」 荀子	挿絵						シーピーシー・フォト提供
93	古典世界ビュー ⑥荀子	国語教材						編修委員による書き下ろし
93	「荀子」 版本	写真						シーピーシー・フォト提供

94～95	活動のプロセス2 「性善説」「性悪説」をもとに 考える	国語教材						執筆協力者による書き 下ろし
96	人主者以刑徳制臣	国語教材	韓非子（上）（新釈漢文大系 第 11巻 12版）	68～69	竹内照夫	三樹 彰（発行 所 明治書院）	昭和44年 （1969年）	改変（別紙⑩参照）
97	教学相長也	国語教材	礼記（中）（新釈漢文大系 第28 巻 12版）	543	竹内照夫	三樹 彰（発行 所 明治書院）	平成2年 （1990年）	改変（別紙⑪参照）
98	聖人治天下	国語教材	孟子（新釈漢文大系 第4巻 46 版）	460～461	内野熊一郎	三樹 讓（発行 所 明治書院）	平成6年 （1994年）	

(漢文編・Ⅱ部)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
100～101	不顧後患	国語教材	故事・寓話Ⅰ（漢詩・漢文解釈 講座 第15巻 初版）	37	石川忠久・内山知 也・加藤道理 （監修）	江藤昌治（発行 所 昌平社）	平成7年 （1995年）	改変（別紙①参照）  アマナイメーヅ提供 アマナイメーヅ提供 アマナイメーヅ提供
100 100 100		写真 写真 写真						
102～103	孔明臥竜	国語教材	蒙求（上）（新釈漢文大系 第58 巻 10版）	148～149	早川光三郎	三樹 彰（発行 所 明治書院）	平成元年 （1989年）	改変（別紙②参照）  シーピーシー・フォト 提供
103	諸葛孔明	挿絵						
104～105	三横	国語教材	世説新語（下）（新釈漢文大系 第78巻 7版）	787	目加田誠	三樹 彰（発行 所 明治書院）	昭和61年 （1986年）	改変（別紙③参照）

104脚注4	蛟（和漢三才図会）	挿絵						国立国会図書館提供
106～107	江南橘為江北枳	国語教材	故事・寓話 I（漢詩・漢文解釈講座 第15巻 初版）	95	石川忠久・内山知也・加藤道理（監修）	江藤昌治（発行所 昌平社）	平成7年（1995年）	改変（別紙④参照） アマナイメーヅ提供 アマナイメーヅ提供
106脚注8 106脚注9	橘 枳	写真 写真						
108～110 109	荊軻 易水離別図（寺崎廣業筆）	国語教材 挿絵	十八史略（上）（新釈漢文大系 第20巻 26版）	143～145	林 秀一	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和54年（1979年）	改変（別紙⑤参照） 秋田市立千秋美術館提供
111～112	子路	国語教材	史記八（列伝一）（新釈漢文大系 第88巻 3版）	154～156	水沢利忠	三樹 讓（発行所 明治書院）	平成6年（1994年）	
114 115	月下独酌 「酔李白」（小杉放庵筆）	国語教材 挿絵	唐詩三百首詳解 上巻（初版）	174	田部井文雄	鈴木荘夫（発行所 大修館書店）	昭和63年（1988年）	改変（別紙⑥参照） 出光美術館提供
116～118 117	兵車行 「兵車行」（結城素明筆）	挿絵	唐詩三百首詳解 上巻（初版）	324～326	同前	同前	同前	東京藝術大学大学美術館提供
119～126 120 121	長恨歌 春宵苦短日高起（長恨歌絵巻） 千乗万騎西南行（長恨歌絵巻）	国語教材 挿絵 挿絵	白氏文集	262～273		京都大学人文科学研究所	昭和46年（1971年）	改変（別紙⑦参照） 中野幸一氏提供 中野幸一氏提供
127	コラム2 「長恨歌」と紫式部一白詩受容の展開	国語教材						編修委員による書き下ろし
128～130	漁父辞	国語教材	楚辞（新釈漢文大系 第34巻 19版）	278～280	星川清孝	三樹 彰（発行所 明治書院）	平成元年（1989年）	改変（別紙⑧参照）

129	屈原（横山大観筆）	挿絵						嚴島神社提供
131～134	捕蛇者説	国語教材	唐宋八大家文読本（二）（新釈漢文大系 第71巻 初版）	641～644	星川清孝	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和51年（1976年）	改変（別紙⑨参照）
134～137	岳陽楼記	国語教材	古文真宝（後集）（新釈漢文大系 第16巻 22版）	182～185	星川清孝	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和50年（1975年）	改変（別紙⑩参照）
138～140	売柑者言	国語教材	景印文淵閣四庫全書	集部，別集類，明洪武至崇禎，誠意伯文集，巻八		台湾商務印書館	昭和58～61年（1983～1986年）	改変（別紙⑪参照）
141～143	人面桃花	国語教材	国訳唐代小説（国訳漢文大成 文学部第12巻 3版）	54	国民文庫刊行会	鶴田久作（発行所 国民文庫刊行会）	大正12年（1923年）	改変（別紙⑫参照）
142	都城の南荘に題す（新編唐詩三百首）	挿絵	絵図本新編唐詩三百首		李本寨	北京少年児童出版社	平成8年（1996年）	
144～147	種梨	国語教材	文章Ⅱ（唐代以降）（漢詩・漢文 解釈講座 第14巻 初版）	729～736	石川忠久・内山知也・加藤道理	江藤昌治（発行所 昌平社）	平成7年（1995年）	改変（別紙⑬参照）
145	蒲松齡	挿絵						シーピーシー・フォト提供
146	中国梨	写真						イメージナビ提供
148～153	三夢記	国語教材	文章Ⅱ（唐代以降）（漢詩・漢文 解釈講座 第14巻 初版）	355～369	同前	同前	同前	改変（別紙⑭参照）
150	長安城地図	地図						編集部作成
152	華岳祠	写真						シーピーシー・フォト提供
154～163	廉頗と藺相如	国語教材	史記九（新釈漢文大系 第89巻 初版）	246～260	水沢利忠	三樹 讓（発行所 明治書院）	平成8年（1996年）	改変（別紙⑮参照）

154	春秋・戦国時代の中国	地図							編集部作成
156	壁を持ちて、柱を睨む（中国成語故事）	挿絵	中国成語故事（第二冊）			人民美術出版社（上海）	平成2年（1990年）		
159	秦王に甌を撃つことを請ふ（中国成語故事）	挿絵	同書						
164～171	蘇武と李陵	国語教材	資治通鑑（第二卷）（続国訳漢文大成経子史部 第2巻 複版）	56～57	鶴田久作	東洋文化協会（発行所 東洋文化協会）	昭和32年（1957年）		編集部作成
164	漢・匈奴関係地図	地図							
167	「蘇李訣別」（菱田春草筆）	挿絵	巨匠の日本画（4）菱田春草			高木俊雄（発行所 学習研究社）	平成6年（1994年）		
169	バイカル湖	写真							サイネットフォト提供
172～173	老子 「無用之用」	国語教材	老子・荘子（上）（新釈漢文大系 第7巻 19版）	28～29	阿部吉雄・山本敏夫・市川安司・遠藤哲夫	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和50年（1975年）		改変（別紙⑯参照）
172	「大道廢有仁義」		同書	41					
172脚注2	老子（岩佐又兵衛筆）	挿絵							東京国立博物館提供 編集部作成
173～176	荘子 「蝴蝶之夢」	国語教材	老子・荘子（上）（新釈漢文大系 第7巻 19版）	149～150	阿部吉雄・山本敏夫・市川安司・遠藤哲夫	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和50年（1975年）		改変（別紙⑰参照）
	「渾沌」		同書	185～186					
173	「言、大而無用」		同書	291					
174	荘子 「夢蝶」（范曾筆）	挿絵							シーピーシー・フォト提供 范曾美術館提供
176～179	韓非子 「侵官之害」	国語教材	韓非子（上）（新釈漢文大系 第11巻 12版）	72	竹内照夫	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和44年（1969年）		改変（別紙⑱参照）
	「処知則難」		同書	151					
177	韓非子	挿絵							シーピーシー・フォト提供

180～182 180 181脚注10	墨子 「非攻」 墨子	国語教材 挿絵 挿絵	墨子（上）（新釈漢文大系 第50巻 10版）	213～215	山田 琢	三樹 讓（発行所 明治書院）	平成6年（1994年）	改変（別紙⑩参照） シーピーシー・フォト提供 編集部作成
182～183	性非学者之所急	国語教材	荻生徂徠（日本思想大系36 初版）	23～24	吉川幸次郎・丸山真男・西田太一郎・辻達也	岩波雄二郎（発行所 岩波書店）	昭和48年（1973年）	
184	以無事取天下	国語教材	思想（漢文名作選1 初版）	140～141	鎌田 正（監修） 江連 隆・若林力（執筆）	鈴木敏夫（発行所 大修館書店）	昭和59年（1984年）	
185～186	不能与君陷難	国語教材	説苑（講談社学術文庫 第1刷）	94	池田秀三（訳注）	渡瀬昌彦（発行所 講談社）	令和元年（2019年）	
186～187	路不拾遺	国語教材	十八史略（下）（新釈漢文大系第21巻 19版）	619～620	林 秀一	三樹 彰（発行所 明治書院）	昭和54年（1979年）	

（口絵・付録）

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
古文編	室内の調度品							
①	鑑筥	写真						風俗博物館提供
①	二階棚	写真						風俗博物館提供
①	二階厨子	写真						風俗博物館提供
①	唐櫛笥	写真						風俗博物館提供

①	鏡台	写真					風俗博物館提供
①	灯台	写真					風俗博物館提供
①	手燭	写真					風俗博物館提供
①	高坏	写真					風俗博物館提供
①	懸盤	写真					風俗博物館提供
①	脇息	写真					風俗博物館提供
①	円座	写真					風俗博物館提供
①	茵	写真					風俗博物館提供
②～④	古文ジャンル解説	表					編集部作成
298～301	日本古典文学史年表	表					編集部作成
302～304	重要古語索引	表					編集部作成
②～④	古典参考図録	図					編集部作成
⑤～⑪	鳥瞰文学史	表					編集部作成
⑫	助動詞一覧表	表					編集部作成
漢文編							
①～②	漢文ジャンル解説	表					編集部作成
188～189	中国文化史年表	表					編集部作成
190～191	重要句形索引	表					編集部作成
①	漢文重要語	表					編集部作成
②～③	漢文常識語	表					編集部作成
④	漢文句形一覧	表					編集部作成

(見返し)

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
古文編								
i	旧国名・都道府県名対照地図	地図						編集部作成
ii	京都付近地図	地図						編集部作成
iii	平安京条坊図／大内裏略図／内	地図						編集部作成



補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。☑

出典一覧表（別紙）

（古文編・I部）

①平家物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
一つとして哀をもよほし、…… (62ページ12～13行目)	一つとして哀れをもよほし、…… (11ページ6行目)	指導しやすくするため

②古今著聞集

原文	教科書の本文	訂正の理由
源義家衣川にて安倍貞任と連歌の事 (272ページ章段名)	衣のたて (17ページタイトル)	難易度への配慮

③沙石集

原文	教科書の本文	訂正の理由
地蔵菩薩種々利益事 (106ページ章段名)	勘解由小路の地蔵 (19ページタイトル)	難易度への配慮

④方丈記

原文	教科書の本文	訂正の理由
身を損ひ、片輪づける人、数も知らず。 (18ページ14行目)	身を損なふ人、数も知らず。 (36ページ4行目)	教育的な配慮

⑤伊勢物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
西の対 (115ページ章段名) 大後の宮おはしましける西の対に、…… (115ページ7行目)	月やあらぬ (44ページタイトル) 大後の宮おはしましける、西の対に …… (44ページ1～2行目)	指導しやすくするため 指導しやすくするため

⑥大和物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
その山にはるはると入りて、…… (392ページ1行目)	その山にはるばると入りて、…… (54ページ5行目)	指導しやすくするため

⑦枕草子

原文	教科書の本文	訂正の理由
おぼろげの紙はえ張るまじければ、…… (157ページ4～5行目)	おぼろげの紙はえ張るまじければ、 …… (70ページ2～71ページ1行目)	指導しやすくするため

⑧大鏡

原文	教科書の本文	訂正の理由
きむちが姓は…… (15ページ8行目)	きむちが姓は…… (75ページ12行目)	指導しやすくするため

さて、土御門より……御道なりけり。 (46ページ8行目～47ページ3行目)	削除	分量を調整するため
--	----	-----------

⑨平家物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
先帝身投 (380ページ章段名)	先帝入水 (96ページタイトル)	指導しやすくするため

⑩平家物語（「無常という事」小林秀雄）

原文	教科書の本文	訂正の理由
あつぱれ荒涼な申しやうかな (64ページ12行目)	荒涼の申しやうかな (101ページ1行目)	引用箇所を、教材「宇治川の先陣」(教科書92～95ページ)の底本である「新編日本古典文学全集46」の原文に合わせることで、指導しやすくするため
金覆輪の鞍置かせ、小総の鞆かけ、白轡はげ白泡かませ、舎人あまた附けたりけれども、なほ引きもためず、跳らせてこそ出来たれ (64ページ14行目～65ページ1行目)	黄覆輪の鞍置いて、小総の鞆かけ、白泡かませ、舎人あまた付いたりけれども、なほ引きもためず、躍らせて出で来たり (101ページ3～4行目)	同前
よき侍二人死んで、鎌倉殿に損取らせてまつらむ (65ページ2～3行目)	よい侍二人死んで、兵衛佐殿に損取らせてまつらむ (101ページ5～6行目)	同前
一文字にさつと渡いて、向の岸にぞ打ち上げたる (65ページ15行目)	一文字にざつと渡いて、向かへの岸にうち上がる (102ページ3行目)	同前
打ち上がらんとすると、後ろよりものこそむずと控へたれ。誰ぞと問へば、重親と答ふ。大串か、さん候。大串の次郎は畠山がためには、烏帽子子にてぞ候ひける。あまりに水が早うて、馬をば川中よりおし流され候ひぬ。力及ばでこれまで著き参つて候と言ひければ、畠山、いつもわ殿ばらがやうなる者は、重忠にこそ助けられむずれといふままに、大串を掴んで、岸の上へぞ投げ上げたる。投げ上げられてただなほり、太刀をぬいて額にあて、大音声をあけて、武蔵の国の住人大串の次郎重親、宇治川の歩立の先陣ぞや、とぞ名乗つたる。敵も御方もこれを聞いて、一度にどつとぞ笑ひける (65ページ17行目～66ページ5行目)	上がらむとすれば、後ろに者こそむずと控へたれ。「誰そ。」と問へば、「重親。」と答ふ。「いかに大串か。」「さんざうらふ。」大串次郎は畠山には烏帽子子にてぞありける。「あまりに水が速うて、馬は押し流されさうらひぬ。力及ばで付きまゐらせてさうらふ。」と言ひければ、「いつもわ殿原は、重忠がやうなる者にこそ助けられむずれ。」と言ふままに、大串を引つ提げて、岸の上へぞ投げ上げたる。投げ上げられ、ただ直つて、「武蔵の国の住人、大串次郎重親、宇治川の先陣ぞや。」とぞ名のつたる。敵も味方もこれを聞いて、一度にどつとぞ笑ひける (102ページ6行目～15行目)	同前

⑪源氏物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
しげく渡らせたまふ御方はえ恥ぢたまはず、…… (43ページ8～9行目)	しげく渡らせたまふ御方は、え恥ぢあへたまはず。…… (112ページ1～2行目)	指導しやすくするため
弘徽殿女御、…… (44ページ7行目)	弘徽殿の女御、…… (113ページ4～5行目)	指導しやすくするため
雀の子を犬君が逃がしつる、…… (206ページ14行目)	すずめの子を犬君が逃がしつる。 (115ページ9～10行目)	指導しやすくするため

## ⑫和歌

原文	教科書の本文	訂正の理由
闇はあやなし梅花…… (30ページ2行目)	闇はあやなし梅の花…… (121ページ2行目)	指導しやすくするため
堀河院御時、…… (67ページ3行目)	堀河院の御時、…… (122ページ7行目)	指導しやすくするため

## ⑬俳諧

原文	教科書の本文	訂正の理由
病 <sup>びやうがん</sup> 鴈の…… (162ページ4行目)	病 <sup>やむかり</sup> 雁の…… (131ページ6行目)	文意を明確にするため
草村に……ころび落たる升落 (327ページ7行目～330ページ4行目)	削除	分量を調整するため
なに故ぞ……風這はする花のかげ (331ページ2～4行目)	削除	分量を調整するため

## ⑭三冊子

原文	教科書の本文	訂正の理由
響に俳諧を聞きつけたり。 (553ページ9行目)	響きに俳諧を聞きつけたり。 (135ページ5行目)	指導しやすくするため

## ⑮雨月物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
くりことはてしぞなき妻涙をとどめて。 …… (253ページ4行目)	繰り言果てしぞなき。妻涙をとどめて、…… (153ページ11～12行目)	文意を明確にするため
幾たびか辛苦を忍びぬる。 (253ページ7行目)	いくたびか辛き目を忍びぬる。 (154ページ1行目)	文意を明確にするため
年月もしるさて。…… (254ページ10～11行目)	年月も記さて、…… (155ページ12行目)	指導しやすくするため

## (古文編・Ⅱ部)

## ①枕草子

原文	教科書の本文	訂正の理由
すさまじきもの <sup>ひる</sup> 晝ほゆる犬、春の網代。 (64ページ10行目)	すさまじきもの。昼ほゆる犬。春の網代。 (172ページ1行目)	文意を明確にするため
また、かならず来べき……すさまじけれ。 (65ページ6行目～66ページ8行目)	削除	分量を調整するため

## ②和泉式部日記

原文	教科書の本文	訂正の理由
もの <sup>ひる</sup> に書きつくるほどにぞ例の御文ある。 (48ページ8行目)	ものに書きつくるほどにぞ、例の御文ある。 (191ページ5～6行目)	文意を明確にするため

## ③紫式部日記

原文	教科書の本文	訂正の理由
ただ思ひかけたりし心の、ひくかたのみ つよくて、……(151ページ11～12行目)	ただ思ひかけたりし心の引く方のみ 強くて、…… (194ページ2行目)	文意を明確にするため

④建礼門院右京大夫集

原文	教科書の本文	訂正の理由
我も人も言ひ出でたりし、…… (121ページ12行目)	われも人も言ひ出でたりし。…… (201ページ2行目)	文意を明確にするため

⑤源氏物語

原文	教科書の本文	訂正の理由
あやし、童べの雪遊びしたるけはひのや うにぞ、…… (150ページ8～9行目)	あやし。童べの雪遊びしたる気配の やうにぞ、…… (224ページ3行目)	指導しやすくするため

⑥古今和歌集仮名序

原文	教科書の本文	訂正の理由
世中にある人、…… (93ページ2行目)	世の中にある人、…… (236ページ3行目)	指導しやすくするため

⑦無名抄

原文	教科書の本文	訂正の理由
彼の類にせんと思ふ給ふる。 (74ページ1行目)	かの類ひにせむと思ひたまふる。 (241ページ10行目)	指導しやすくするため

⑧三冊子

原文	教科書の本文	訂正の理由
一時の変化あり、この二つに究り、…… (575ページ1～2行目)	一時の変化あり。この二つに極ま り、…… (247ページ1～2行目)	文意を明確にするため

⑨大鏡

原文	教科書の本文	訂正の理由
かくて筑紫に……ひるよしもなき (76ページ9行目～80ページ14行目)	削除	分量を調整するため
さて後七年ばかりありて、……まつりご ちたまひけれ。 (82ページ8行目～90ページ12行目)	削除	分量を調整するため

⑩古事記

原文	教科書の本文	訂正の理由
其れより入り幸でまして、……其れより 幸行でまして、 (215ページ3行目～221ページ7行目)	削除	分量を調整するため

## ⑪難波土産

原文	教科書の本文	訂正の理由
是に付て、……それ故に (359ページ3～13行目)	削除	分量を調整するため

## ⑫柴門の辞

原文	教科書の本文	訂正の理由
許六離別ノ詞 (205ページ章段名) たどりうしなふる事なかれ。 (206ページ9行目)	柴門の辞 (278ページタイトル) たどり失ふことなかれ。 (279ページ5行目)	指導しやすくするため 指導しやすくするため

## ⑬雲萍雑誌

原文	教科書の本文	訂正の理由
大勢いでゝ侘るにぞ。 (273ページ17行目)	大勢出でてわぶるにぞ、 (283ページ7行目)	文意を明確にするため

## ⑭近世和歌

原文	教科書の本文	訂正の理由
めせやめせゆふけの妻木…… (378ページ6行目)	召せや召せゆふげの妻木…… (288ページ6行目)	指導しやすくするため

## (漢文編・I部)

## ①画竜点睛

原文	教科書の本文	訂正の理由
天監中……歴〔任〕す。 (198ページ8～9行目)	削除	分量を調節するため
これを画かしむ。 (198ページ9～10行目)	之に画かしむ。 (14ページ2行目)	文意を明確にするため
時に……せしめず。又 (198ページ10～14行目)	削除	分量を調節するため
妄誕となす。固くこれに…… (199ページ1行目)	妄誕と為し、固く之を…… (14ページ3行目)	文意を明確にするため
騰去して天に上り、二竜の…… (199ページ2～3行目)	騰りて上天に去る。二竜の…… (14ページ4行目)	文意を明確にするため

## ②漱石枕流

原文	教科書の本文	訂正の理由
當に石に枕し流れに漱がんとすすべきに、…… (982ページ1～2行目)	當に石に枕し流れに漱がんとすべきに、…… (15ページ1～2行目)	指導しやすくするため

## ③病入膏肓

原文	教科書の本文	訂正の理由
公疾病なり。 (749ページ19行目)	晋の景公疾病なり。 (16ページ1行目)	指導しやすくするため
未だ至らず。公夢む、…… (749ページ20行目)	未だ至らざるに、公の夢に、…… (16ページ2行目)	指導しやすくするため
懼らくは我を傷つけん。 (750ページ1行目)	我を傷つけんことを懼る。 (16ページ2～3行目)	指導しやすくするため
醫至る。曰く、 (750ページ3行目)	医至りて曰はく、 (16ページ4行目)	文意を明確にするため
肓の上、膏の下に在り。之を攻むるも可ならず (750ページ3～4行目)	肓の上、膏の下に在りて、之を攻むるは不可なり。 (16ページ4～5行目)	文意を明確にするため
之に達せんとするも及ばず。 (750ページ4～5行目)	之に達せんとするも及ばず、 (16ページ5行目)	文意を明確にするため

## ④梁上君子

原文	教科書の本文	訂正の理由
有盗夜入其室、 (1067ページ1行目)	盗有りて夜陳寔の室に入り、 (17ページ1～2行目)	指導しやすくするため

## ⑤先従隗始

原文	教科書の本文	訂正の理由
生を問ひ、辞を卑うし…… (140ページ13行目)	昭王辞を卑くし…… (19ページ1行目)	指導しやすくするため
郭隗に問うて……得ん、と。 (140ページ14～18行目)	削除	分量を調節するため

## ⑥杞憂

原文	教科書の本文	訂正の理由
只れ墜ちしむるも、 (48ページ9行目)	只使 <sup>たと</sup> ひ墜つるも、 (21ページ2行目)	文意を明確にするため

## ⑦背水の陣

原文	教科書の本文	訂正の理由
間道 <sup>へいざん</sup> の埤山よりして趙軍を望ましむ。 (120ページ13～14行目)	間道より山に葺 <sup>かく</sup> れて趙の軍を望ましむ。 (30ページ2～3行目)	文意を明確にするため

## ⑧秋風引

原文	教科書の本文	訂正の理由
孤客最も先づ聞く。 (646ページ7行目)	孤客最も先に聞く (34ページ4行目)	文意を明確にするため

## ⑨望廬山瀑布

原文	教科書の本文	訂正の理由
瀑布の前川を挂くるを (252ページ2行目)	瀑布の前川に挂かるを (36ページ2行目)	文意を明確にするため

## ⑩臨洞庭

原文	教科書の本文	訂正の理由
波は撼 <sup>うご</sup> かす岳陽城 (330ページ15行目)	波は撼 <sup>ゆる</sup> がす岳陽城 (38ページ2行目)	文意を明確にするため

## ⑪桃夭

原文	教科書の本文	訂正の理由
之子 <sup>こ</sup> 于に帰ぐ (20ページ11行目) (21ページ7行目) (21ページ11行目)	之の子 <sup>ゆ</sup> 于き帰ぐ (42ページ2行目) (42ページ4行目) (42ページ6行目)	文意を明確にするため

## ⑫行行重行行

原文	教科書の本文	訂正の理由
道路 <sup>へだ</sup> 阻たりて…… (554ページ11行目)	道路 <sup>けは</sup> 阻しく…… (43ページ3行目)	文意を明確にするため

## ⑬勅勒歌

原文	教科書の本文	訂正の理由
風吹き草低れて牛羊 <sup>み</sup> を見る (16ページ7行目)	風吹き草低れて牛羊 <sup>あらは</sup> 見る (45ページ4行目)	文意を明確にするため

⑭川中島の戦い

原文	教科書の本文	訂正の理由
信玄何在 (160ページ章段名)	川中島の戦い (52ページタイトル)	難易度への配慮

⑮桃花源記

原文	教科書の本文	訂正の理由
阡陌交通し、…… (288ページ8行目)	阡陌交はり通じ、…… (59ページ1行目)	文意を明確にするため
往来種作、男女衣著、…… (288ページ8～9行目)	往来種作する男女の衣著は、…… (59ページ1～2行目)	文意を明確にするため
便要家に還り、…… (288ページ10行目)	便ち要へて家に還り、…… (59ページ3～4行目)	文意を明確にするため
今何れの世ぞ、…… (288ページ12行目)	今は是れ何の世ぞと。 (59ページ6～7行目)	指導しやすくするため
其の家に至る、…… (288ページ13行目)	其の家に至らしめ、…… (59ページ8行目)	文意を明確にするため
扶けて路に向ふ、…… (289ページ1行目)	向の路に扶ひ、…… (60ページ1行目)	文意を明確にするため
人を遣り其に随つて往かしむ、… (289ページ2行目)	人を遣はして其の往くに随はしむ。 (60ページ2行目)	指導しやすくするため
親ら往く、…… (289ページ3行目)	往くを覘る。 (60ページ4行目)	指導しやすくするため

⑯師説

原文	教科書の本文	訂正の理由
業を受け (84ページ15行目)	業を授け (62ページ2行目)	指導しやすくするため
人の惑ふこと (85ページ19行目)	人の惑ひ (63ページ1行目)	文意を明確にするため
師とするを恥づるは惑へり。 (86ページ13行目)	師とするを恥づ。惑へり。 (63ページ6～7行目)	指導しやすくするため
句讀の知らざる、惑の解けざる、 (86ページ15行目)	句讀を之れ知らざる、惑ひを之れ解かざる、 (63ページ8～9行目)	指導しやすくするため

⑰鴻門之会

原文	教科書の本文	訂正の理由
項王に見ゆ。鴻門に至り、…… (455ページ6行目)	項王に見えんとし、鴻門に至り、… (65ページ1行目)	文意を明確にするため
皆且に虜にせられんとす、と。 (456ページ10行目)	皆且に虜とする所と為らんとすと。 (67ページ2行目)	指導しやすくするため
将を遣りて関を守るは、…… (458ページ10行目)	将を遣はして関を守らしめし者、… (70ページ6～7行目)	指導しやすくするため
劳苦して…… (458ページ11行目)	劳苦だしくして…… (70ページ7行目)	文意を明確にするため
樊噲・夏侯嬰・靳彊・紀信等四人と、劍盾を持して歩走し、 (461ページ4～5行目)	樊噲・夏侯嬰・靳彊・紀信等四人の劍盾を持して歩走するものと、 (72ページ9行目～73ページ1行目)	文意を明確にするため

⑱四面楚歌

原文	教科書の本文	訂正の理由
是に於て、……大王の言の如し、と。 (495ページ6行目～497ページ20行目) 独り籍のみの…… (498ページ13行目)	削除 独り項王の…… (81ページ9～10行目)	分量を調節するため 指導しやすくするため

⑲荀子

原文	教科書の本文	訂正の理由
干越夷貉の子、…… (16ページ14行目) 是れ並世にして起こると雖も、…… (486ページ6行目) 利を好むこと有り、是に順ふ、…… (687ページ4行目) 疾悪すること有り、是に順ふ、…… (687ページ5行目) 声色を好むこと有り、是に順ふ、…… (687ページ6～7行目)	干・越・夷・貉の子、…… (90ページ1行目) 是れ世に並びて起こると雖も、…… (90ページ7行目) 利を好むこと有り。是れに順ふ、… … (91ページ4行目) 疾悪すること有り。是れに順ふ、… … (91ページ5行目) 声色を好むこと有り。是れに順ふ、 …… (91ページ6行目)	指導しやすくするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため 文意を明確にするため

⑳人主者以刑徳制臣

原文	教科書の本文	訂正の理由
夫の…… (65ページ10行目) 狗に服せむ。 (69ページ1行目)	夫れ…… (96ページ1行目) 狗に服せられん。 (96ページ2行目)	文意を明確にするため 文意を明確にするため

㉑教学相長也

原文	教科書の本文	訂正の理由
自ら強むるなり。 (543ページ8行目)	自ら強むるなり。 (97ページ3行目)	文意を明確にするため

(漢文編・Ⅱ部)

①不顧後患

原文	教科書の本文	訂正の理由
丸を懐き弾を操つて…… (37ページ3行目) 是くの如くすること三旦。 (37ページ4行目) 蟬高く居り (37ページ6行目)	丸を懐き弾を操りて…… (100ページ5行目) 是くのごとき者三旦なり。 (100ページ6行目) 蟬高居し (100ページ8行目)	文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため

②孔明臥竜

原文	教科書の本文	訂正の理由
謂ひて信に然りと為す。 (148ページ16～17行目) 此の人は就いて見る可く、 (149ページ2行目)	謂へらく信に然りと為すと。 (102ページ3～4行目) 此の人は就きて見る可きも、 (102ページ5行目)	指導しやすくするため 指導しやすくするため

③三横

原文	教科書の本文	訂正の理由
年少の時、 山中に遺跡の虎有り、並びに… 行くこと数十里、處之と… 慶す。 乃ち呉に入り二陸を尋ぬ。 處遂に自ら改勵し、	年少 <sup>わか</sup> き時、 山中に遺跡の虎有り。並びに… 行くこと数十里。處之と… 慶 <sup>よろこ</sup> ぶ。 乃ち往きて二陸を尋ぬ。 處遂に改勵し、	指導しやすくするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 指導しやすくするため

④江南橋為江北枳

原文	教科書の本文	訂正の理由
其 <sup>きた</sup> の来 <sup>お</sup> るに為いてや、	為 <sup>も</sup> し其れ来たらば、	文意を明確にするため

⑤荊軻

原文	教科書の本文	訂正の理由
喜の太子丹……	燕王喜の太子丹……	指導しやすくするため

⑥月下独酌

原文	教科書の本文	訂正の理由
永く結ばん無情の遊を	永く無情の遊を結び	文意を明確にするため

⑦長恨歌

原文	教科書の本文	訂正の理由
天旋り日転じて……	天旋り地転じて……	指導しやすくするため
……字は玉真	……字は太真	指導しやすくするため
……夢中驚く	……夢魂驚く	指導しやすくするため
雲鬢半ば垂れて……	雲鬢半ば偏き……	指導しやすくするため

⑧漁父辞

原文	教科書の本文	訂正の理由
其 <sup>り</sup> の醜 <sup>しる</sup> を……	其 <sup>しる</sup> の醜 <sup>しる</sup> を……	文意を明確にするため
皓 <sup>はく</sup> 皓 <sup>はく</sup> の白を以てして、……	皓 <sup>はく</sup> 皓 <sup>はく</sup> の白きを以て、……	文意を明確にするため

⑨捕蛇者説

原文	教科書の本文	訂正の理由
黒質にして白章、草木に觸るれば盡く死す。…… (641ページ1～2行目)	黒質にして白章あり。草木に触るればれば尽く死し、…… (131ページ1～2行目)	文意を明確にするため
大風・攣腕・瘻癘を已め、…… (641ページ3行目)	大風・攣腕・瘻癘を已やし、…… (131ページ3行目)	文意を明確にするため
募りて能く之を捕ふる者有れば、…… (641ページ5行目)	能く之を捕らふること有る者を募りて、…… (131ページ4～5行目)	文意を明確にするため
貌甚だ感ふる者の若し。 (641ページ9行目)	貌甚だ感ふる者のごとし。 (131ページ8行目)	文意を明確にするため
余將に事に莅む者に告げて、若の役を更め、若の賦を復せんとせば…… (641ページ10行目～642ページ1行目)	余將に事に莅む者に告げ、若の役を更め、若の賦を復せんとす。…… (132ページ1～2行目)	文意を明確にするため
日々に蹙り、…… (643ページ1行目)	日に蹙まり、…… (132ページ7行目)	文意を明確にするため
其の廬の入るを…… (643ページ2行目)	其の廬の入るを…… (132ページ7行目)	文意を明確にするため
相藉くなり。 (643ページ4行目)	相藉けり。 (132ページ9行目)	文意を明確にするため
南北に蹶突し、譁然として駭く者、雞狗と雖も寧きを得ず。 (644ページ1～2行目)	南北に蹶突す。譁然として駭く者、雞狗と雖も寧きを得ず。 (133ページ4行目)	文意を明確にするため
吾恂恂として起ち、其の缶を視て、吾が蛇尚ほ存すれば、則ち弛然として臥す。 (644ページ2～3行目)	吾恂恂として起き、其の缶を視て、吾が蛇尚ほ存すれば、則ち弛然として臥す。 (133ページ5行目)	文意を明確にするため
死を犯す者…… (644ページ5行目)	死を犯す者…… (133ページ7行目)	文意を明確にするため
安ぞ敢て毒とせんやと。 (644ページ8行目)	安くんぞ敢へて毒とせんやと。 (133ページ9行目)	文意を明確にするため
苛政は虎よりも猛しと。 (644ページ8～9行目)	苛政は虎よりも猛なりと。 (133ページ10行目)	文意を明確にするため

⑩岳陽樓記

原文	教科書の本文	訂正の理由
重ねて岳陽樓を修め、…… (182ページ2～3行目)	岳陽樓を重修し、…… (135ページ2行目)	文意を明確にするため
横に際涯無く、…… (183ページ1行目)	横に際涯無く、…… (135ページ6行目)	文意を明確にするため
檣傾き檣摧け…… (184ページ2～3行目)	檣傾き檣摧け、…… (136ページ1～2行目)	文意を明確にするため

⑪売柑者言

原文	教科書の本文	訂正の理由
將街外以惑愚瞽也 (3～4行目)	削除 (139ページ6～7行目)	指導しやすくするため
糜廩粟 (10行目)	糜粟を糜やして…… (139ページ6～7行目)	指導しやすくするため

⑫人面桃花

原文	教科書の本文	訂正の理由
居人の莊一畝の宮を得たり。	居人の莊を得たり。一畝の宮にし	文意を明確にするため

<p>(54ページ4行目) 左扉に見て字有り。(54ページ12行目) 遂に絶食数日にして…… (54ページ12行目) 曰はく吾老いたり。(54ページ12行目) 請ふ入りて之に哭せんことを。 (54ページ13行目)</p>	<p>て、…… (141ページ2～3行目) 左扉に字有るを見て、…… (143ページ4行目) 遂に食を絶つこと数日にして…… (143ページ4～5行目) 吾老いたり。(143ページ5行目) 入りて之に哭せんことを請ふ。 (143ページ7行目)</p>	<p>文意を明確にするため 文意を明確にするため 指導しやすくするため 文意を明確にするため</p>
--	---	--

⑬種梨

原文	教科書の本文	訂正の理由
郷人の梨を市に貨る有り。 (729ページ1行目)	郷人の梨を市に貨ぐ有り。 (144ページ1行目)	指導しやすくするため
何ぞ怒れると。 (729ページ5行目)	何ぞ怒るを為さんと。 (145ページ1行目)	指導しやすくするため
劣者一枚を…… (729ページ5行目)	劣る者一枚を…… (145ページ2行目)	指導しやすくするため
肆中の傭保者、 (729ページ6～7行目)	肆中の傭保せらるる者、 (145ページ3行目)	文意を明確にするため
梨を掬して大いに啗う。 (732ページ5行目)	梨を掬りて大いに啗らう。 (145ページ9行目)	文意を明確にするため
好事者 (732ページ7～8行目)	事を好む者 (146ページ1行目)	文意を明確にするため
路に臨む店に (732ページ8行目)	臨路の店に (146ページ2行目)	指導しやすくするため
樹頭に即きて摘み、 (732ページ11～12行目)	樹頭に即きて摘り、 (146ページ6行目)	文意を明確にするため
樹を伐り、丁丁たること… (732ページ13行目)	樹を伐る。丁丁たること… (146ページ7行目)	指導しやすくするため
葉を帯びて肩頭に荷ひ、 (732ページ14行目)	帯葉肩頭に荷ひ、 (146ページ8行目)	文意を明確にするため
車上を細視するに、一鞆亡し。是れ新たに…… (736ページ4～5行目)	細かに車上を視れば、一鞆亡く、是れ新たに…… (147ページ1～2行目)	文意を明確にするため
牆隅を転じ過ぐれば、 (736ページ6行目)	転じて牆隅を過ぐれば、 (147ページ3行目)	文意を明確にするため

⑭三夢記

原文	教科書の本文	訂正の理由
黒くして長く、…… (367ページ3行目)	黒くして長あり、…… (152ページ3行目)	文意を明確にするため

⑮廉頗と藺相如

原文	教科書の本文	訂正の理由
人を使はし書を發して趙王に至らしむ。 (251ページ6～7行目)	人をして書を發して趙王に至らしむ。 (156ページ8行目)	文意を明確にするため
臣をして璧を奉じ拜して書を庭に送らしむ。 (251ページ12～13行目)	臣をして璧を奉ぜしめ、書を庭に押送す。 (157ページ3行目)	文意を明確にするため
王と訣して曰く、…… (256ページ9行目)	王と訣れて曰はく、…… (159ページ3行目)	文意を明確にするため
寡人窃かに聞けり、趙王音を好むと。 (257ページ1～2行目)	寡人窃かに趙王音を好むと聞く。 (159ページ7～8行目)	文意を明確にするため
趙王窃かに聞けり、秦王善く秦声を為すと。 (257ページ4～5行目)	趙王窃かに秦王善く秦声を為すと聞く。 (160ページ1行目)	文意を明確にするため

## ⑩老子

原文	教科書の本文	訂正の理由
埴 <sup>ち</sup> を挺して…… (28ページ3行目)	埴 <sup>しよく</sup> を挺して…… (172ページ1行目)	指導しやすくするため

## ⑪莊子

原文	教科書の本文	訂正の理由
周の夢に蝴蝶と為りしか、蝴蝶の夢に周と為りしかを知らず。 (186ページ1～2行目)	知らず、周の夢に蝴蝶と為れるか、蝴蝶の夢に周と為れるか。 (174ページ2～3行目)	指導しやすくするため

## ⑫韓非子

原文	教材の本文	訂正の理由
以て其の事を失 <sup>しつ</sup> すと爲せばなり。 (72ページ4～5行目)	以て其の事を失 <sup>うしな</sup> ふと爲せばなり。 (177ページ4行目)	文意を明確にするため
官を越えれば則ち死し、…… (72ページ8～9行目)	官を越ゆれば則ち死 <sup>ころ</sup> され、…… (177ページ7行目)	文意を明確にするため

## ⑬墨子

原文	教科書の本文	訂正の理由
(挿入)	苟くも人を虧くことの愈多ければ (180ページ7行目～181ページ1行目)	指導しやすくするため

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申請図書			学習上の参考に供する情報			備考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	古文編 2	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編目次ページに配置。掲載情報の一覧およびリンク集。 各ボタンを押下すると、番号2～12に遷移する。	別紙1添付
2	古文編 73	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編I部④「随筆II」単元 枕草子「雪のいと高う降りたるを」の参考資料として、白居易「香炉峰下、新たに山居をとし、草堂初めて成り、偶東壁に題す」の訓点付き漢文・書き下し文・現代語訳を掲載。 清少納言と中宮の会話のもととなった漢詩を確認することができる。	別紙2添付 画像
3	古文編 87	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編I部⑤「歴史と軍記」単元「構成と概観『平家物語』」の参考資料として地図を掲載。 「平家物語」の登場人物のうち、源氏方の重要武将3人（源義経・木曾義仲・源範頼）について、源平の戦いにおける進撃路を地図で確認することができる。	別紙3添付 画像
4	古文編 106	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編I部⑥「物語」単元「構成と概観『源氏物語』」の参考資料としてのウェブページ。 「源氏物語」の世界観を理解するうえで重要となる、伝統色および「襲」の色の取り合わせについて、その名称を色見本とともに知ることができる。また、「源氏物語」と関わりのある色や襲については、その説明を読むことができる。	別紙4添付 画像
5	古文編 121	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編I部⑦「和歌と俳諧」単元「和歌」の参考資料として地図を掲載。 教科書掲載の和歌に詠み込まれた歌枕をはじめとして、全国に点在する主な歌枕を地図上に表示。地図上のアイコンを選択することで、当該歌枕を詠み込んだ和歌およびその作者・出典を、地点情報の形で確認することができる。	別紙5添付 地図 番号6と同一の地図。初期状態で表示される情報の違いによって区別する。
6	古文編 129	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編I部⑦「和歌と俳諧」単元「古典世界ビュー ⑥小倉百人一首」の参考資料として地図を掲載。 番号5の地図に、小倉百人一首に詠み込まれた歌枕を示すアイコンを、重ねて描画した状態のもの。地図上のアイコンを選択することで、当該歌枕を詠み込んだ和歌およびその作者・歌番号を、地点情報の形で確認することができる。	別紙6添付 地図 番号5と同一の地図。初期状態で表示される情報の違いによって区別する。
7	古文編 179	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編II部①「随筆」単元 枕草子「二月つごもりごろに」の参考資料として、白居易「南秦の雪」の訓点付き漢文・書き下し文・現代語訳を掲載。 公任の詠んだ下の句のもととなった漢詩を確認することができる。	別紙7添付 画像
8	古文編 269	二次元 コード	独立行政法人 日本芸術文化振興会（文化デジタルライブラリー）	<a href="https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc9/index.html">https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc9/index.html</a>	古文編II部⑥「評論II」単元 風姿花伝「秘する花を知ること」の参考資料として、文化デジタルライブラリーの「能」のサイトへのリンク。 「能」についての理解を深めることができる。	別紙8添付 リンク

9	古文編 287	二次元 コード	独立行政法人 日本芸術 文化振興会（文化デジ タルライブラリー）	<a href="https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc26/index.html">https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc26/index.html</a>	古文編Ⅱ部⑦「近世の文章・戯曲・和歌」単元 曾根崎心中「徳兵衛お初道行」の参考資料として、文化デジタルライブラリーの「文楽」へのサイトのリンク。「文楽」についての理解を深めることができる。	別紙9添付 リンク
10	古文編 293 (右)	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編Ⅱ部⑧「古典世界の夜一月・星・闇」単元 建礼門院右京大夫集「星の夜の深きあはれ」の参考資料としてのウェブページ。本文において、星空・夜空の描写に用いられる伝統色について、その色味を色見本で確認することができる。また、本文との関わりについて、説明を読むことができる。	別紙10添付 画像 番号11と同一ページに配置。遷移後の初期表示位置で区別する。
11	古文編 293 (左)	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編Ⅱ部⑧「古典世界の夜一月・星・闇」単元 建礼門院右京大夫集「星の夜の深きあはれ」の参考資料として画像を掲載。本文において、作者が眺めたと考えられる夜空の様子を、本文の記述から日付や方角を推定し専用ソフトで再現。本文において作者が夜空を見上げた際の情景を追体験することができる。	別紙11添付 画像 番号10と同一ページに配置。遷移後の初期表示位置で区別する
12	古文編 巻末1	二次元 コード	自社	自社ページURL	古文編巻末1「古典参考図録」の参考資料として画像を掲載。「平安貴族の住居」についてイメージすることができる。また、「五行・十干・十二支」についての理解を深めることができる。	別紙12添付 画像
13	漢文編 2	二次元 コード	自社	自社ページURL	漢文編目次ページに配置。掲載情報の一覧およびリンク集。各ボタンを押下すると、番号14～15に遷移する。	別紙13添付
14	漢文編 28	二次元 コード	自社	自社ページURL	漢文編Ⅰ部②「史伝Ⅰ」単元「構成と概観『史記』」の参考資料として地図を掲載。「史記」の執筆に影響を与えた、司馬遷青年時代の旅について、その行程や歴訪地を地図で確認することができる。	別紙14添付 地図
15	漢文編 80	二次元 コード	自社	自社ページURL	漢文編Ⅰ部⑥「史伝Ⅱ」単元 史記「四面楚歌」の参考資料として画像を掲載。京劇が描き出す、本文の重要な一場面を写真で確認することができる。	別紙15添付 画像

資料一覧

I 部	随筆 II	73ページ 枕草子「雪のいと高う降りたるを」 ●白居易「香炉峰下、新たに山居をとし、草堂初めて成り、偶興壁に題す」	①
I 部	歴史と軍記	87ページ 構成と概観「平家物語」 ●源氏武将進撃路	①
I 部	物語	106ページ 構成と概観「源氏物語」 ●古典に登場する色	①
I 部	和歌と俳諧	121ページ 和歌 ●地図 主な歌枕一覧	①
		129ページ 古典世界ビュー ⑥小倉百人一首 ●地図 主な歌枕一覧	①
II 部	随筆	179ページ 枕草子「二月つごもりごろに」 ●白居易「南秦の雪」	①
II 部	評論 II	269ページ 風姿花伝「秘する花を知ること」 ●能とは何か	①
II 部	近世の文章・戯曲・和歌	287ページ 曾根崎心中「徳兵衛お初道行」 ●文素とは何か	①
II 部	古典世界の夜一月・星・闇	293ページ 建礼門院右京大夫集「星の夜の深きあはれ」 ●古典に登場する色	①
		293ページ 建礼門院右京大夫集「星の夜の深きあはれ」 ●一一八六年旧暦十二月一日頃の星空	①
	古典参考図録	巻末 ① 古典参考図録 ●平安貴族の住居／五行・十干・十二支	①

ページ全景

各ボタンを押下すると、番号 2 ～ 1 2 へ遷移する

※遷移先の画面は別紙 2 ～ 1 2 を参照



73ページ I部 随筆II

枕草子「雪のいと高う降りたるを」

●白居易「香炉峰下、新たに山居をトし、草堂初めて成り、偶東壁に題す」

故	心	司	匡	香	遣	小	日	草	香
郷	泰	馬	廬	炉	愛	閣	高	堂	炉
何	身	仍	便	峰	寺	重	睡	初	峰
独	寧	為	是	雪	鐘	衾	足	成	下
在	是	送	逃	撥	歎	不	猶	偶	新
長	婦	老	名	簾	枕	怕	慵	題	ト
安	処	官	地	看	聽	寒	起	東	山
								壁	居

ページ全景

訓点付き漢文、書き下し文、現代語訳を掲載

【書き下し文】

香炉峰下、新たに山居をトし、草堂初めて成り、偶東壁に題す

日高く睡り足りて猶起るに慵し  
 小閣に衾を重ねて寒きを怕れず  
 遺愛寺の鐘は枕を敬てて聴き  
 香炉峰の雪は簾を撥げて看る  
 匡廬は便ち是れ名を逃るるの地  
 司馬は仍お老いを送るの官為り  
 心泰く身寧きは是れ歸する処  
 故郷何ぞ独り長安に在るのみならんや

【現代語訳】

香炉峰下に、新たに山中の住居を占い定め、かやぶきの粗末な家ができたばかりで、たまたま思いがけなく詩ができて東壁に書き付ける

日は高く昇り、睡眠はもう十分なのだが、まだ起きるのは面倒だ。  
 小さな高殿で、重ねた布団に包まって、寒さを感じない。  
 遺愛寺の鐘の音は枕を縦にして耳をすまし、  
 香炉峰の雪は、布団の中から簾をはね上げて眺める。  
 廬山は、俗世から隠れて住むのにふさわしい土地であり、  
 司馬という閑職も、老人が余生を送るのには悪くはない。  
 心が安らかで身に障りがなければ、それ以上何を望むことがあるうか。  
 どうして故郷がただ長安にあるだけということになるうか、いや、長安だけが故郷ではあるまい。

87ページ I部 歴史と軍記  
構成と概観「平家物語」  
●源氏武将進撃路



3人の武将の進撃路を色別の矢印で示す。  
経路上に位置する主な地名も表示。

### 106ページ I部 物語 構成と概観「源氏物語」 ●古典に登場する色

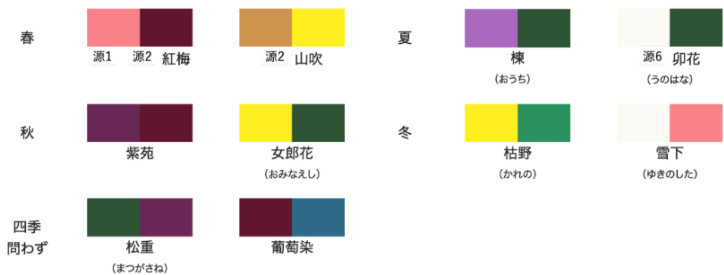
#### 古典に登場する色

古典世界に登場する色を知ることで、描かれている場面を色鮮やかに思い浮かべられるようになる。「源氏物語」に関連する色には、源、星空に関連する色には星を付けている。

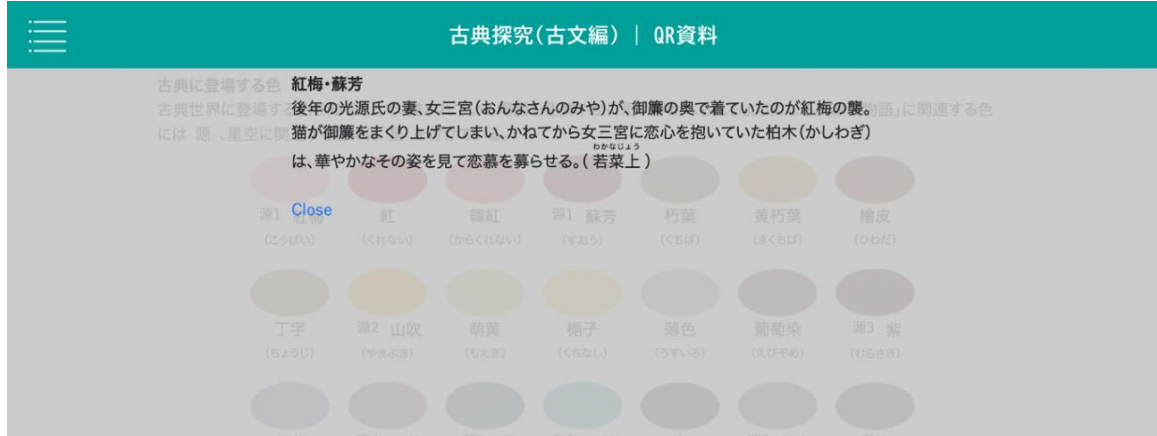


#### 裏(かさね)の色目

衣服の表地と裏地の色の取り合わせ。または、重ね着をしたときの、上に着る服と、襟や袖にわずかに見える部分との色の取り合わせ。季節に合わせて、取り合わせごとに優美な名がつけられた。



#### ①ページ全景



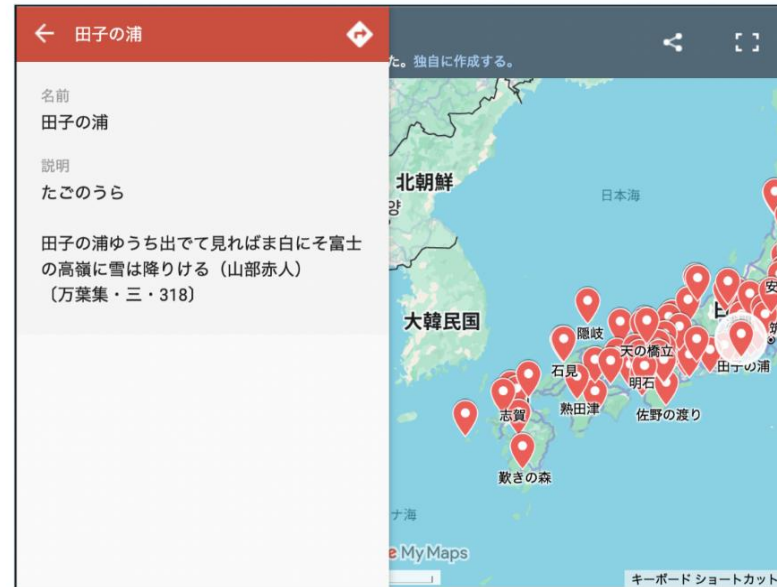
②ボタンの1つを押下し、色と「源氏物語」との関連情報を表示させた状態。

121ページ I部 和歌と俳諧  
和歌  
●地図 主な歌枕一覧



①初期状態  
全国に点在する主な歌枕をピンで示す。

121ページ I部 和歌と俳諧  
和歌  
●地図 主な歌枕一覧



②歌枕の1つを選択し、地点情報を表示させた状態。

129ページ I部 和歌と俳諧  
古典世界ビュー ⑥小倉百人一首  
●地図 主な歌枕一覧



①初期状態  
全国に点在する主な歌枕を示すピンと、  
百人一首の歌枕を示すアイコンが、重ねて表示される。

129ページ I部 和歌と俳諧  
古典世界ビュー ⑥小倉百人一首  
●地図 主な歌枕一覧



②百人一首の歌枕の1つを選択し、地点情報を表示させた状態。

179ページ II部 随筆  
枕草子「二月つごもりごろに」  
●白居易「南秦の雪」

若 <sup>も</sup> <sub>シ</sub>	仍 <sup>な</sup> <sub>ホ</sub>	君 <sup>きみ</sup>	我 <sup>わが</sup> <sub>ハ</sub>	二 <sup>に</sup>	三 <sup>さん</sup> <sub>ニ</sub>	慣 <sup>な</sup> <sub>ル</sub>	往 <sup>むか</sup>	南 <sup>なん</sup>
聞 <sup>き</sup> <sub>カ</sub>	頼 <sup>たの</sup> <sub>ミ</sub>	作 <sup>な</sup> <sub>シ</sub>	思 <sup>おも</sup> <sub>フ</sub>	月 <sup>つき</sup>	時 <sup>とき</sup>	従 <sup>したが</sup> <sub>リ</sub>	歳 <sup>とし</sup>	秦 <sup>しん</sup>
猿 <sup>さる</sup>	愁 <sup>しゅう</sup>	初 <sup>はつ</sup>	旧 <sup>きゅう</sup>	山 <sup>さん</sup>	雲 <sup>うん</sup>	駱 <sup>らく</sup>	曾 <sup>そう</sup>	雪 <sup>ゆき</sup>
叫 <sup>こゑ</sup> <sub>ヲ</sub>	猿 <sup>さる</sup>	行 <sup>ゆ</sup> <sub>ク</sub>	事 <sup>こと</sup>	寒 <sup>さむ</sup> <sub>ク</sub>	冷 <sup>ひや</sup> <sub>シ</sub>	口 <sup>くち</sup> <sub>ヲ</sub>	為 <sup>な</sup> <sub>リ</sub>	
更 <sup>さら</sup> <sub>ニ</sub>	寒 <sup>さむ</sup> <sub>ク</sub>	定 <sup>さだ</sup> <sub>メ</sub>	猶 <sup>なほ</sup> <sub>シ</sub>	少 <sup>すく</sup> <sub>シ</sub>	多 <sup>おほ</sup> <sub>ク</sub>	到 <sup>いた</sup> <sub>ル</sub>	西 <sup>せい</sup>	
愁 <sup>しゅう</sup> <sub>ハ</sub>	不 <sup>ふ</sup> <sub>レ</sub>	苦 <sup>くる</sup>	惆 <sup>ちゆう</sup>	有 <sup>あ</sup> <sub>リ</sub>	飛 <sup>と</sup> <sub>ビ</sub>	南 <sup>なん</sup>	邑 <sup>い</sup> <sub>ヲ</sub>	
人 <sup>ひと</sup>	叫 <sup>こゑ</sup> <sub>ハ</sub>	辛 <sup>くる</sup> <sub>シ</sub>	悵 <sup>たう</sup>	春 <sup>はる</sup>	雪 <sup>ゆき</sup>	秦 <sup>しん</sup>	吏 <sup>し</sup>	

ページ全景

訓点付き漢文、書き下し文、現代語訳を掲載

【書き下し文】

南秦の雪

往歳曾て西邑の吏と為り、  
 駱口より南秦に到るに慣る。  
 三時雲冷やかにして多く雪を飛ばし、  
 二月山寒うして春有ること少なし。  
 我は旧事を思うて猶ほ惆悵す、  
 君は初行を作して定めて苦辛せん。  
 仍ほ頼に愁猿寒うして叫ばず、  
 若し猿の叫ぶを聞かば更に人を愁しめん。

【現代語訳】

南秦の雪

かつて西邑の役人であったころ、  
 よく駱口から南秦への道を通った。  
 春夏秋の三つの季節においてもいつも雲は冷たく、多く雪を飛ばして散らし、  
 二月になっても山は寒くて春の気配は少ない。  
 私はその頃を思い出しただけでも悲しくなるが、  
 君は初めての旅行でさぞ苦労しているだろう。  
 とはいえ、幸いに猿が寒くて悲しげに鳴かないのはまだしもである。  
 もしこの地で猿の鳴き声を聞けば、君をさらに悲しませるだろう。

## 269ページ II部 評論II 風姿花伝「秘する花を知ること」 ●能とは何か

能とは何か

独立行政法人 日本芸術文化振興会（文化デジタルライブラリー）より：

<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc9/index.html>

一次遷移画面



二次遷移画面  
（「文化デジタルライブラリー」ウェブサイト 初期画面）

### 287ページ II部 近世の文章・戯曲・和歌 曾根崎心中「徳兵衛お初道行」 ●文楽とは何か

文楽とは何か  
独立行政法人 日本芸術文化振興会（文化デジタルライブラリー）より：  
<https://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/contents/learn/edc26/index.html>

一次遷移画面

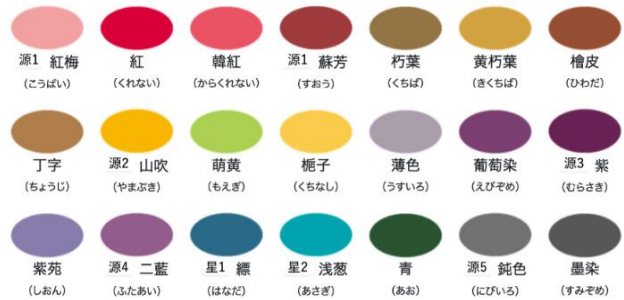


二次遷移画面  
（「文化デジタルライブラリー」ウェブサイト 初期画面）

293ページ II部 古典世界の夜一月・星・闇  
建礼門院右京大夫集「星の夜の深きあはれ」  
●古典に登場する色

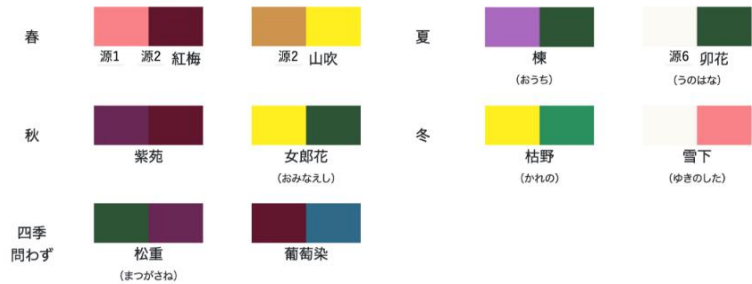
古典に登場する色

古典世界に登場する色を知ることで、描かれている場面を色鮮やかに思い浮かべられるようになる。「源氏物語」に関連する色には 源、星空に関連する色には 星 を付けている。



裏(かさね)の色目

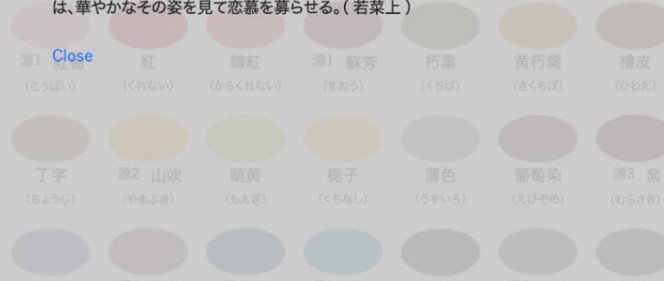
衣服の表地と裏地の色の取り合わせ。または、重ね着をしたときの、上に着る服と、襟や袖にわずかに見える部分との色の取り合わせ。季節に合わせて、取り合わせごとに優美な名がつけられた。



①ページ全景

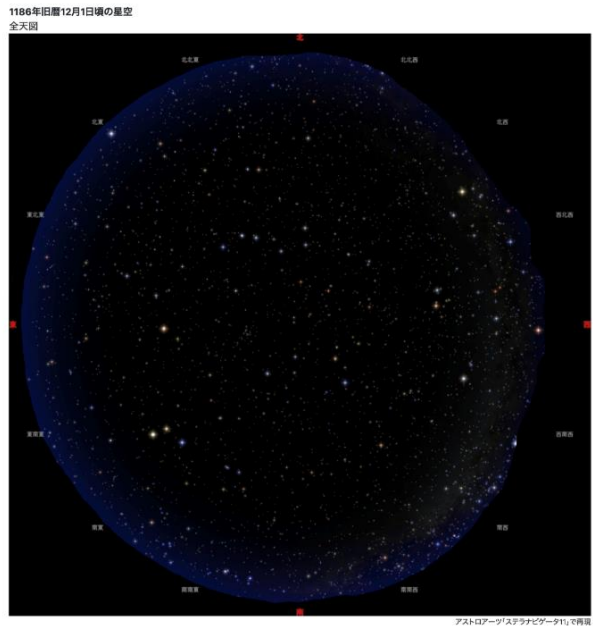
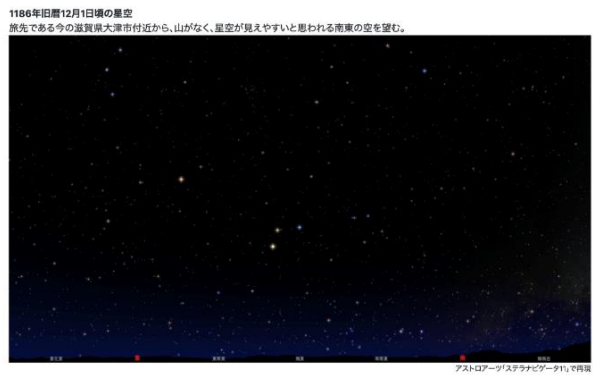
※コンテンツは番号4と共通

古典に登場する色 紅梅・蘇芳  
後年の光源氏の妻、女三宮(おんなさんのみや)が、御簾の奥で着ていたのが紅梅の襲。[語]に関連する色には 源、星空に関連する色には 星 を付けている。  
猫が御簾をまくり上げてしまい、かねてから女三宮に恋心を抱いていた柏木(かしわざ)は、華やかなその姿を見て恋慕を募らせる。(若菜上)



②ボタンの1つを押下し、本文における夜空の描写との関連情報を表示させた状態。

293ページ II部 古典世界の夜一月・星・闇  
建礼門院右京大夫集「星の夜の深きあはれ」  
●一一八六年旧暦十二月一日頃の星空



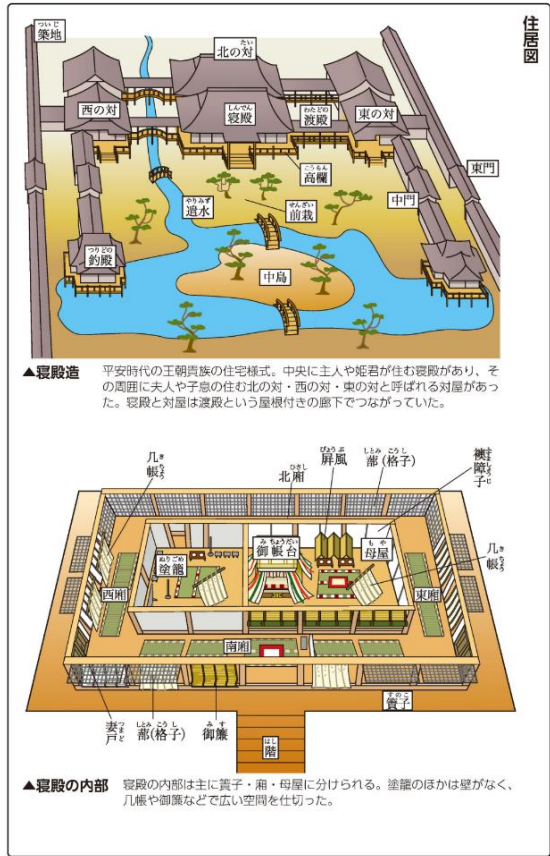
293ページ II部 古典世界の夜一月・星・闇  
建礼門院右京大夫集「星の夜の深きあはれ」  
●一一八六年旧暦十二月一日頃の星空



②拡大図は、下部のボタンを押下することで、星の名前（現代のもの）の表示の有無を切り替えることができる。

①ページ全景  
拡大図・全天図の2枚を掲載。

卷末 ① 古典参考図録  
 ●平安貴族の住居 / 五行・十干・十二支



▲寝殿造 平安時代の王朝貴族の住宅様式。中央に主人や姫君が住む寝殿があり、その周囲に夫人や子息の住む北の対・西の対・東の対と呼ばれる対屋があった。寝殿と対屋は渡殿という屋根付きの廊下でつながっていた。

▲寝殿の内部 寝殿の内部は主に黄子・廂・母屋に分けられる。塗籠のほかは壁がなく、几帳や御簾などで広い空間を仕切った。

平安貴族の住居

五行	水	金	土	火	木	五行
五行	弟 癸	兄 辛	弟 己	兄 丁	弟 乙	五行
十干	みずのと	かのと	つちのと	ひのと	きのと	十干
十二支	亥(猪)	酉(鶏)	未(羊)	午(馬)	辰(龍)	十二支

\*五行：古代中国の思想で、万物を構成する  
 とされる五つの要素。  
 \*十干：五行を隔(乙)と陰(弟)に分け、  
 それぞれ一字をあてたもの。物事の順序  
 を示すのに用いる。  
 \*十二支：太陽の進む道(黄道)を十二等分  
 し、それぞれに動物の名を配したものを時  
 刻や方位などを示すのに用いる。  
 ○十干と十二支を組み合わせたものを干支  
 (日本では「六十」といって、その六十通り  
 ある組み合わせを、年・月・日などを示す  
 のに用いる。

五行・十干・十二支

古典探究(漢文編) | QR資料

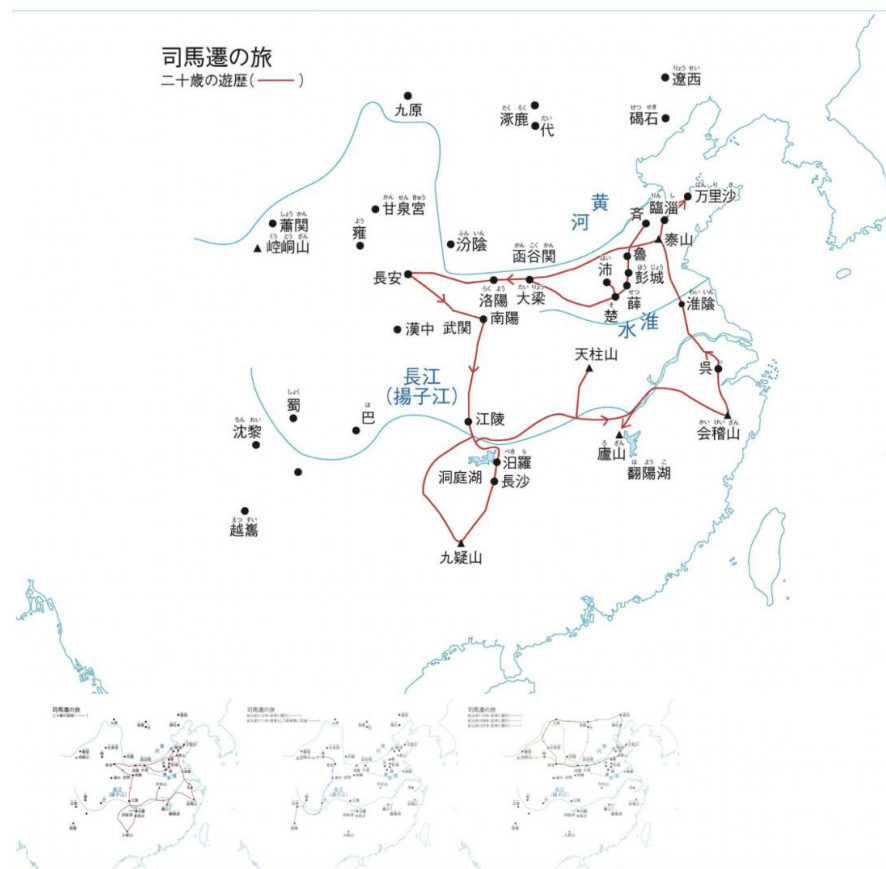
資料一覧

I 部	史伝 I
28ページ 構成と概観「史記」	
●地図 司馬遷の旅	
➔	
I 部	史伝 II
80ページ 史記「四面楚歌」	
●写真 京劇「霸王別姬」	
➔	

ページ全景

各ボタンを押下すると、番号14～15へ遷移する  
※遷移先の画面は別紙14～15を参照

28ページ I部 史伝  
構成と概観「史記」  
●地図 司馬遷の旅



地図は3枚掲載。下部のサムネイル、またはメイン画面上に表示される < > ボタンを選択することで、拡大表示する地図の切り替えが可能。



80ページ I部 史伝II  
史記「四面楚歌」  
●写真 京劇「霸王別姫」

京劇は、中国の伝統的な演劇である。「霸王別姫」は、現代でもたびたび上演される京劇の代表的な演目の一つで、項羽と虞美人の最後の別れを描いている。



画像は4枚掲載。下部のサムネイル、またはメイン画面上に表示される < > ボタンを選択することで、拡大表示する画像の切り替えが可能。